テレビや周辺機器を設置する

各部のなまえ

リモコン

- 128 画面表示ボタン
- 56 電源ボタン
- 114 CS デジタルボタン
- 114 BS デジタルボタン
- 113 115 チャンネルボタン または 数字入力ボタン
  (10 ボタンは 0(ゼロ) ボタンとしても使用します。)
- 113 116 音量ボタン
- 119 赤ボタン
- 119 青ボタン
- 118 裏番組ボタン
- 119 番組表ボタン
- 76 メニューボタン
- 76 決定ボタン
- 76 カーソルボタン
- 133 べんりボタン
- 132 再生ボタン
- 132 一時停止ボタン
- 132 サーチ / スローボタン
- 132 DVD 電源ボタン
- 132 DVD メニューボタン

- 音声切換ボタン 129
- チャンネル番号入力ボタン 113 115
- 地上デジタルボタン 114
- 地上アナログボタン 112
- 消音ボタン 127
- チャンネルアップ / ダウンボタン 113 115
- 入力切換ボタン 131
- 黄ボタン 119
- 緑ボタン 119
- ワイド切換ボタン 124
- ⓓ連動データボタン 117
- 番組検索ボタン 122
  「ジャンル検索」へ移行します。
- 戻るボタン 76
- 停止ボタン 132
- スキップ / コマ送りボタン 132
- DVD/HDD 切換ボタン 132
- ナビ / トップメニューボタン 132

本体　前面

本体　右側面

電源
入力切換
メニュー
音量
チャンネル
ヘッドホン
主電源
(押)入-切

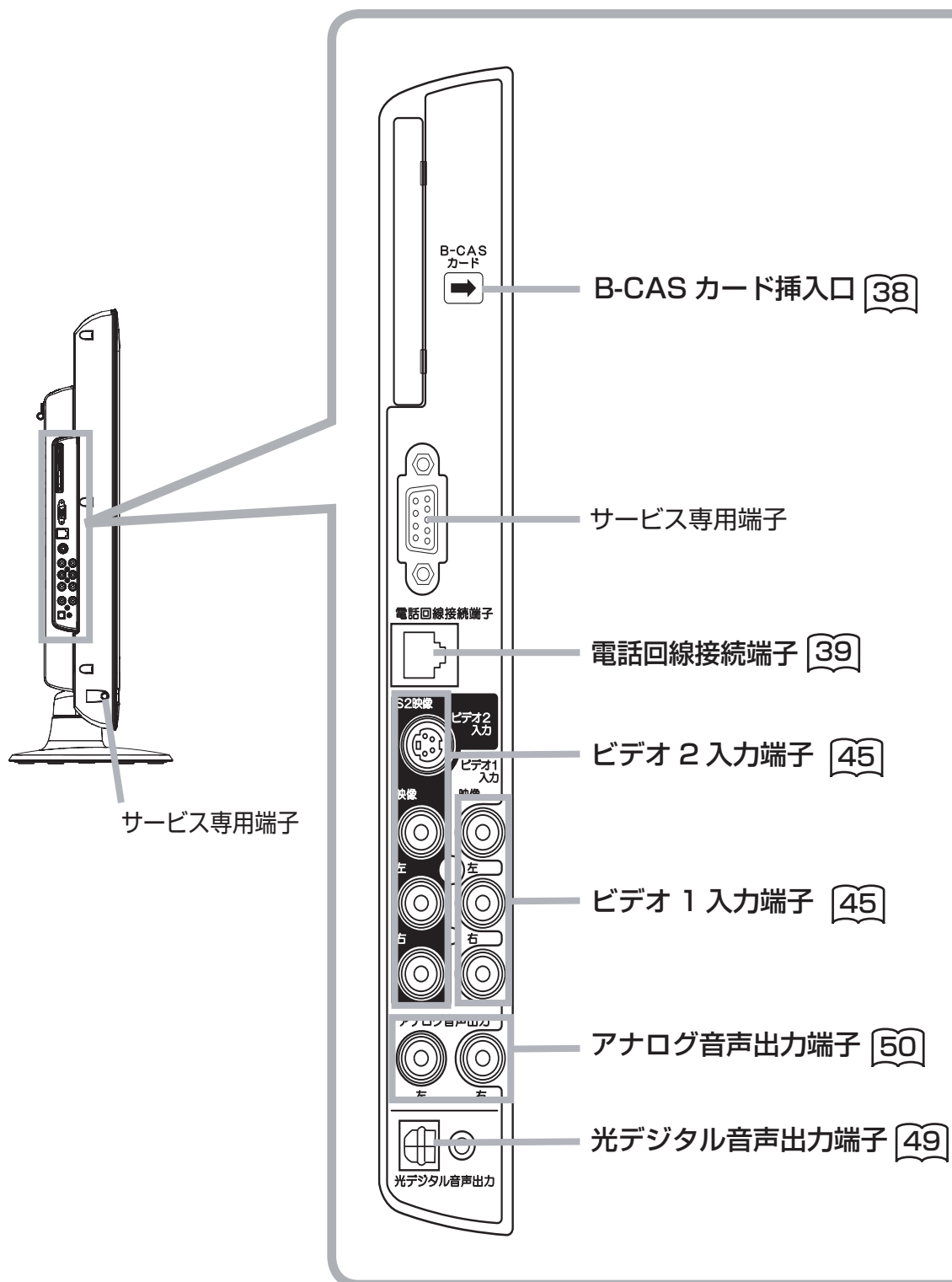
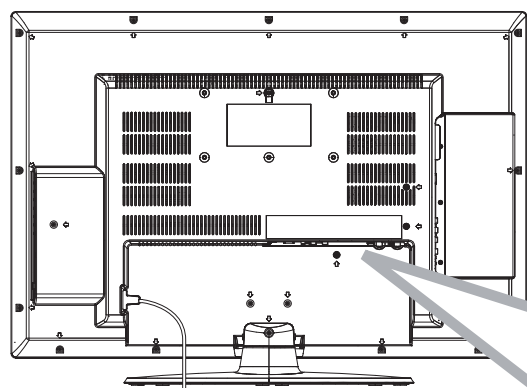
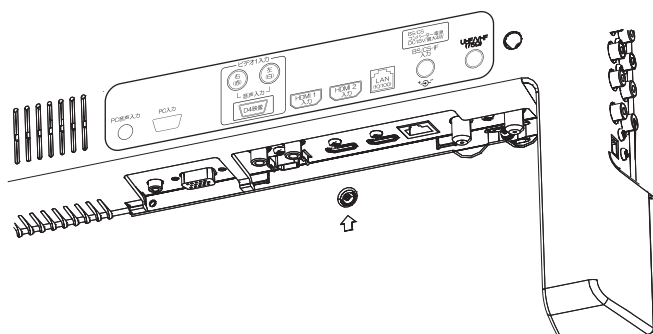
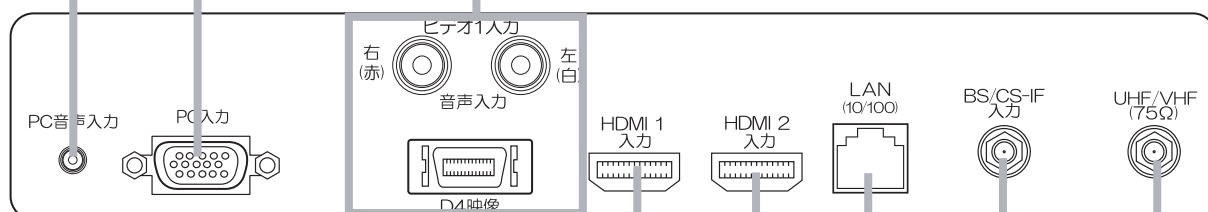
- 電源ボタン　56
- 入力切換ボタン　131
- メニューボタン　76
- 音量ボタン　113 116
- チャンネルボタン　113 115
- ヘッドホーン (ミニ) 端子
  別売りのミニプラグヘッドホーンを接続する端子です。　113 116
- 主電源スイッチ　56

お知らせ

本機の操作ができなくなった場合は、次の操作を行ってから動作を確認してください。

・本体側面にある主電源ボタンで電源「 切 」にし、スタンバイ / 受像ランプ消灯後、再度主電源ボタンを押し、電源を入れる。

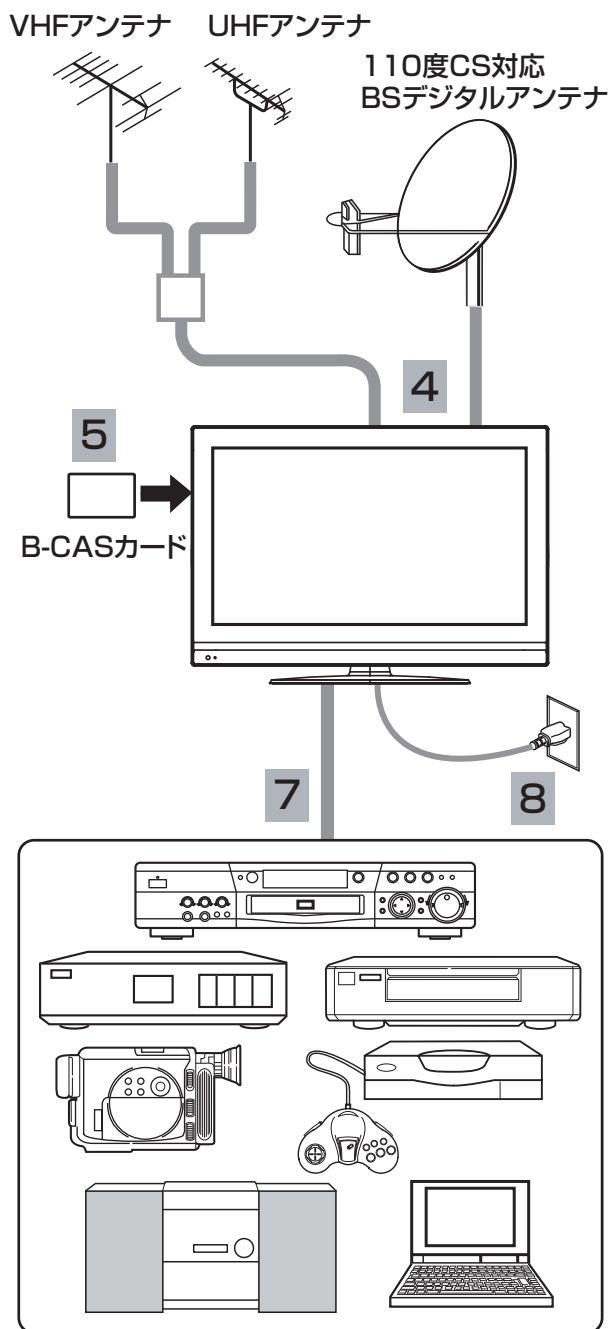
各部のなまえ

本体　左側面

本体　後面

将来発売予定の機器との接続

テレビ関連機器の中には、現在開発中で数年後に実用化されると思われる機器がいくつかあり、システムアップが可能となります。使い方など、詳しくは各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

設置と準備の進めかた

重要 本機の設置やアンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
（設置・準備費用については、お買上げの販売店にご相談ください。）

ご自分で設置と準備をされるときは、下記の順番で作業してください。

1 付属品を確認します 3

2 本機を据え付けます 30

3 リモコンに電池を入れます 33

4 アンテナ線と本機を接続します 34 , 36

5 B-CAS カードを挿入します (重要) 38

6 電話回線、LAN インターフェースを接続します 39 , 40

7 お手持ちの機器を接続します 43
- ■ ビデオ、DVD レコーダー、ＤＶＤプレーヤーなど 44
- ■ HDMI 出力対応の DVD レコーダーなど 46
- ■ ビデオカメラ 47
- ■ ゲーム機 48
- ■ オーディオ機器 49
- ■ CATV ホームターミナル 51
- ■ PC（パソコン）52

8 電源プラグをコンセントに差し込みます 54

9 はじめて設定で受信設定をします 57
メニューからの受信設定も可能です。 88

10 電話回線、ISP(プロバイダー)、LAN を設定します 78 , 85

11 接続した外部機器を設定します 107

地上デジタル放送を受信するには

地上デジタル放送を受信するには、下記の要件がすべて整っていることが必要です。

1. 受信地点は、すでに放送地域になっていますか？

2006 年 12 月から全国の都道府県庁所在地において地上デジタル放送が見られるようになりました。その後、その受信可能エリアは順次拡大される予定です。地上デジタル放送の受信エリアのめやすは、総務省またはお近くの地方総合通信局にお問い合わせください。

2. UHF アンテナは、地上デジタル放送に対応していますか？

UHF アンテナには全帯域型と帯域専用型がありますので、全帯域型または地上デジタル放送対応型をご使用ください。

3. UHF アンテナは、地上デジタル放送の送信塔の方向に向いていますか？

現在お住まいの地域で、地上デジタル放送の送信塔が地上アナログ放送と同じ方向の場合は、そのままの向きで地上デジタル放送を受信できますが，送信塔の方向が違う場合は、アンテナの向きを地上デジタル放送の送信塔の方向に変更する必要があります。

4. 地上デジタル放送受信機の入力信号は、所定の信号強度がありますか？

地上デジタル放送は、現在のアナログ放送との混信を避けるために、当初は非常に小さな出力で放送されますので、受信エリアが限定されます。また、受信エリア内であっても、地形やビル陰などによって電波がさえぎられる場合や電波の伝搬状況などにより、視聴できない場合があります。

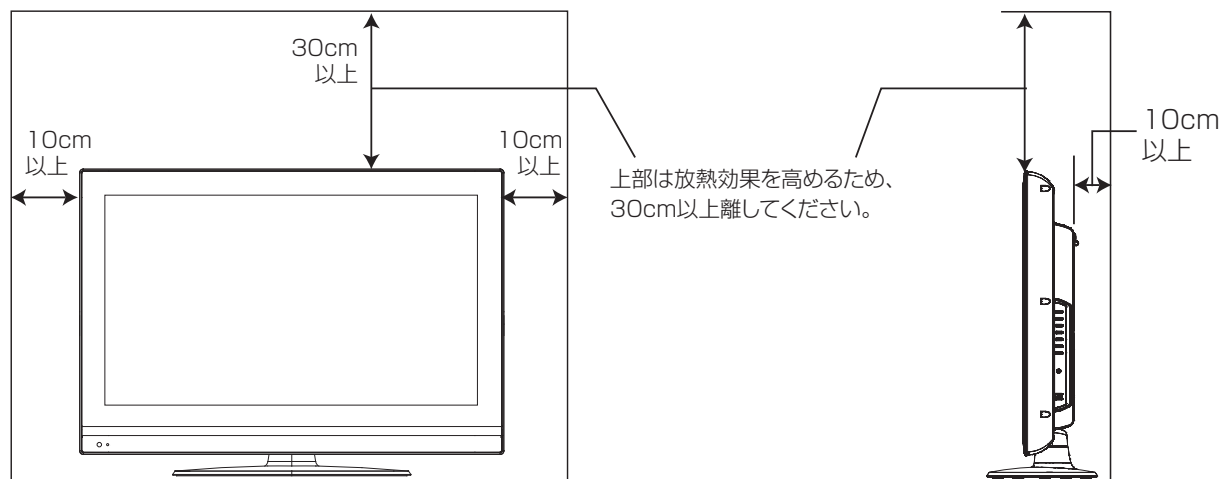
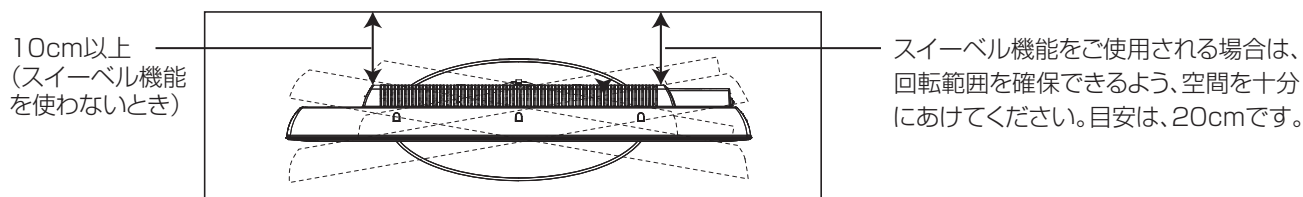
●ケーブルテレビまたは共聴・集合住宅施設でご視聴の方は、ケーブル事業者または共聴施設管理者にお問い合わせください。

●地上デジタル放送を受信するためには、最初に「地域名」の設定と「初期スキャン」の操作が必要です。91

据え付けについて

据え付けるときのご注意

スタンド設置の場合

① 密閉したケースや棚などに設置しないでください。
② 本体の周囲は、放熱のための空間を十分に確保してください。

L32-H03B、L32-H03W
放熱のため空間およびスイーベル時の空間を十分に確保してください。

⚠注意

●本機の据え付けには性能および安全性を維持するために必ず付属のスタンドや専用のオプションユニットをご使用ください。付属のスタンドを使用せずに、別の取り付け強度が不足する部材を使用すると、転倒したり落下して火災・感電・けがの原因となります。
●通風孔をふさがないように据え付けてください。
　通風孔をふさぐと熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。
●本機は安定したところに据え付けてください。テレビを傾いた場所や、凸凹のある場所などに
　設置しないでください。また、転倒防止の処置を行ってください。
　本機が転倒し、けがの原因となることがあります。

お守りください

スイーベル機能 (テレビを手動で左または右に回転させる機能) をお使いになる場合の注意点 (L32-H03B, L32-H03W)

●テレビを回転させる時に、過度な力を加えますと、破損の原因となります。
●テレビに乗ったり､ぶら下がったりしないようにしてください。また､テレビを前後左右に揺らさないでください。
　スタンドの破損の原因となります。
●テレビの回転範囲内に､顔や手などを近づけないでください。手をはさんだり､けがの原因となることがあります。
　特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
●テレビの回転範囲内に、花びんなど、ものを置かないようにしてください。
　テレビを回転させる時に、接触してものを破損したり，スタンドの破損の原因となることがあります。また、スタンドがすべって台からはずれてしまう恐れがあります。
●テレビを傾いた場所や、凸凹のある場所などに設置しないでください。
　テレビが正常に回転しない場合があるだけではなく、破損の原因となります。

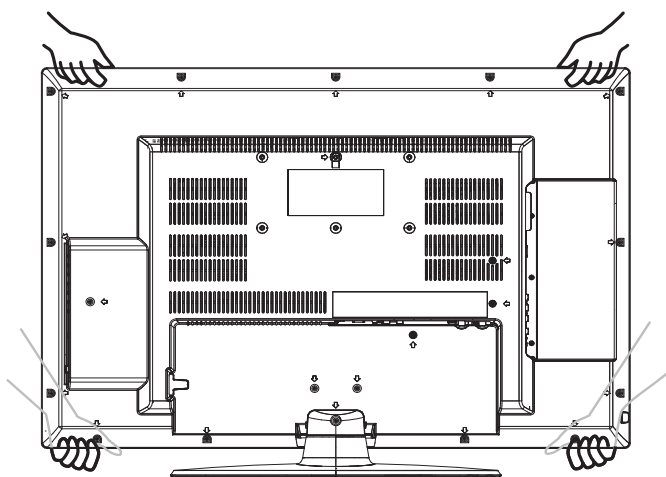
壁掛け・天吊り設置の場合

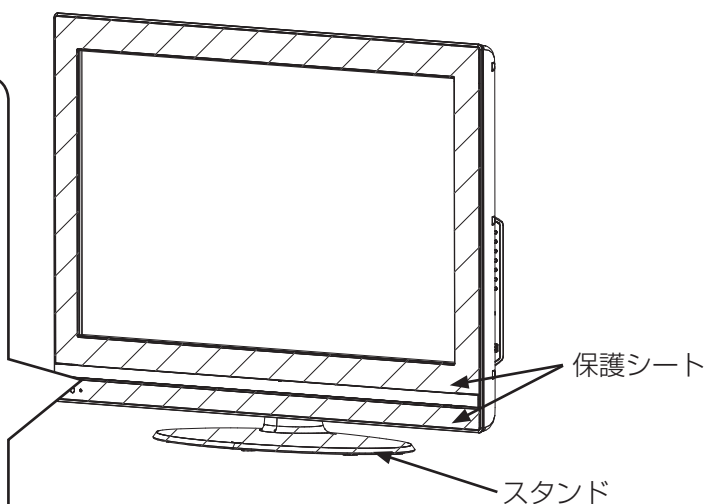
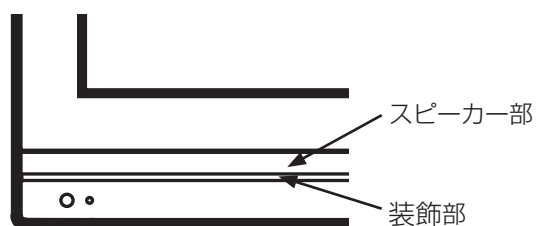
⚠注意
別売の専用壁掛ユニットを使用して壁に取り付ける場合は、危険ですから個人での取り付けは避け、販売店にお問い合わせの上、指定の取り付け工事業者に依頼してください。

壁掛け金具について

- L22-H03B/W
  VESA 対応壁掛け金具に対応しています。
- L26-H03B/W、L32-H03B/W
  以下の専用金具をお使いください。
  型名：TB-PKF2651　液晶テレビ専用壁掛けユニット

移動するとき (L26-H03B/W、L32-H03B/W)

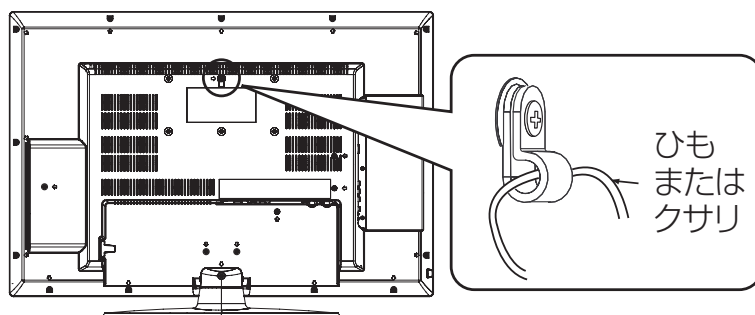
●この商品は重量物です。移動するときは、二人作業で持ち運びしてください。
●持ち運びは、製品上側と製品下側の両端部を持って製品を保持してください。

保護シートについて

●本機は工場出荷時、下図の斜線部分に保護シートが貼ってありますので、設置後に取り外してお使いください。
●スタンドの保護シートは、中央部より手で破るなどして取り外してください。

据え付けについて

転倒防止について

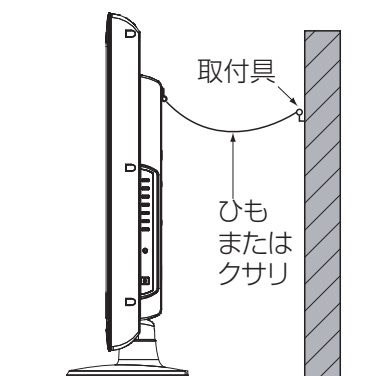
スタンドご使用時の転倒防止について

地震等での製品の転倒・落下によるけがなどの危害軽減するために、転倒防止対策を行って下さい。

1 図のようにセット後面上部のフックにひもまたはクサリを通してください。

2 確実に支持できる壁や柱などに、しっかりと固定してください。

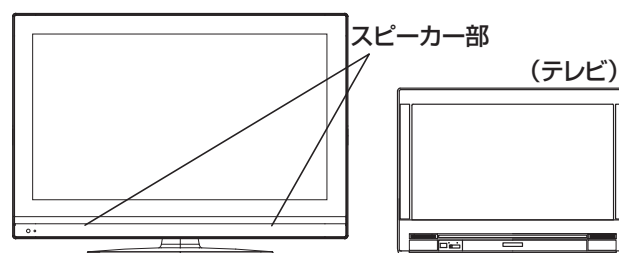
●ひもまたはクサリ、取付具は市販品をご利用ください。

L32-H03B, L32-H03W

テレビを回転させるときに、回転の支障にならない程度のひも（クサリ）の長さに調整してください。

⚠注意

転倒・落下防止器具を取り付ける壁や台の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は適当な補強を施してください。また、転倒・落下防止対策はけがなどの危害の軽減を意図したものですが、全ての地震に対してその効果を保証するものではありません。

お守りください

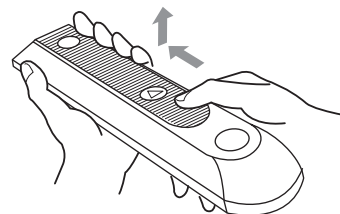
●ブラウン管タイプのテレビをスピーカー部に近づけると、ブラウン管テレビに色むらや画面揺れが発生することがありますので離して使用してください。

リモコンの取り扱い

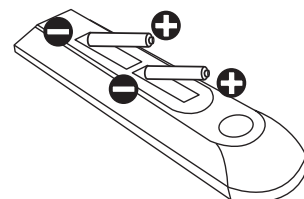
⚠注意

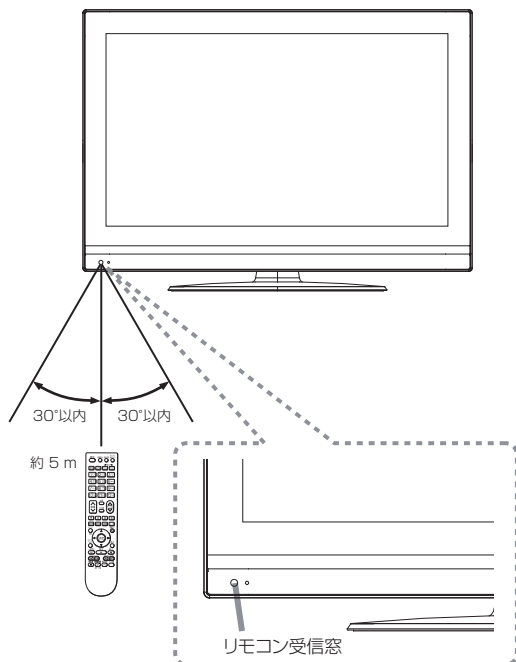
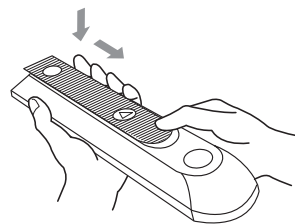
乾電池の使用上のご注意

●本機で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となることがあります。
●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラスとマイナスの向きに注意し、機器の表示通り正しく入れてください。まちがえますと電池の破裂、液もれにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

1 電池ぶたをはずす

矢印の方向に押しながら開けます。

2 乾電池を入れる

付属の単 3 形乾電池を⊕、⊖の表示どおりに入れます。

3 電池ぶたを閉める

電池ぶたを矢印の方向に押して戻します。

●リモコンは、本機のリモコン受信窓に向けて操作します。
●リモコンは、それぞれのリモコン受信窓の正面から約 5 メートル、左 30 度、右 30 度の範囲内でお使いください。

お守りください　リモコンの使用上のご注意

●リモコンを落としたり、衝撃を与えないでください。
●リモコンに水をかけたり、ぬれたものの上に置かないでください。故障の原因になります。
●長時間ご使用にならない場合は、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
●リモコンの操作がしにくくなった場合は、乾電池を交換してください。乾電池を入れる前に、乾布などで電池端子部をきれいにふいてください。端子部が汚れていると、接触不良のために正常に動作しないことがあります。
●リモコン受信窓に直射日光などの強い光が当たると動作しなくなることがあります。光が直接当たらないようにテレビの向きを変えてください。
●電子レンジなどの加熱料理器に、リモコン送信機・乾電池を入れて加熱しないでください。発熱により火災・故障の原因になります。
●ふた無しで使用すると、金属物などで乾電池がショートし発熱、液もれ、破裂などさせるおそれがありますので、必ずふたを閉めてご使用ください。

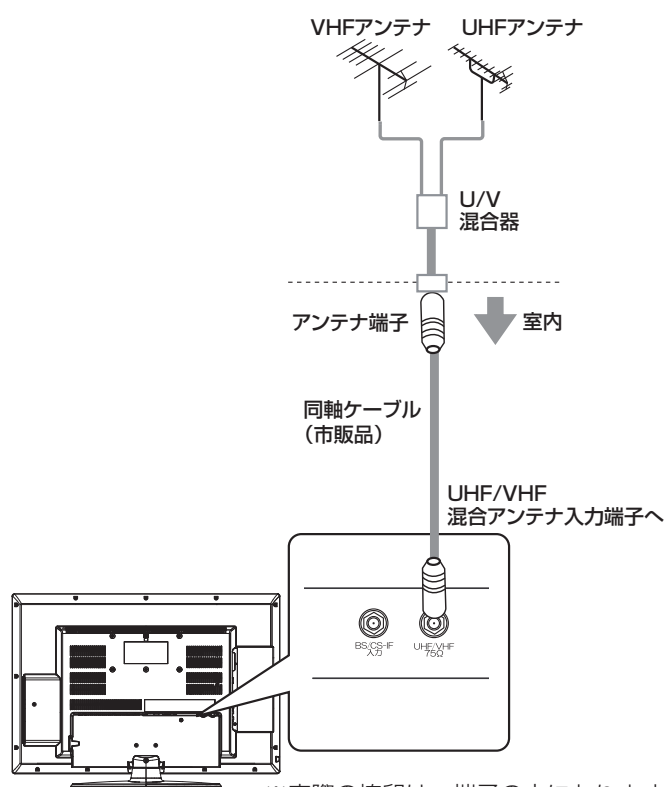
アンテナと接続する

⚠注意
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

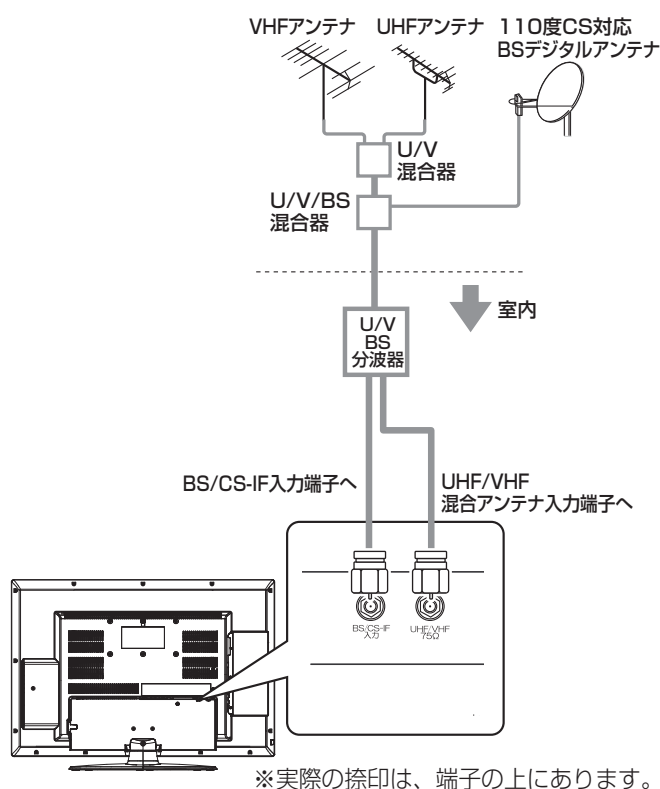
①アンテナの種類に応じ、下図の要領で UHF/VHF 混合アンテナ端子に接続してください。
②地上デジタル放送を受信するときは、UHF アンテナを使用します。VHF アンテナでは受信できません。また、現在お使いのアンテナが UHF アンテナでも、調節や取り替えが必要な場合もありますので、その際は、販売店にご相談ください。
③本機の UHF/VHF 混合アンテナ端子への接続に市販の U/V 混合器やアンテナアダプターを使用する場合は、できるだけ本機より離して接続してください。
④ UHF/VHF アンテナが独立のときなど、混合器の取り付けが必要な場合は、販売店にご相談ください。
⑤ CATV ケーブルと接続するときは、伝送方式や接続について詳しくは CATV 会社にお問い合わせください。

UHF/VHF アンテナの接続

UHF/VHF アンテナが混合のとき

※実際の捺印は、端子の上にあります。

① 同軸ケーブル（市販品）を本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続する。
② 同軸ケーブル（市販品）の反対側をお部屋のアンテナ端子と接続する。

BS･CS が混合のとき（例：UHF/VHF/BS 混合入力）

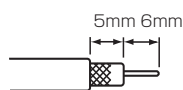
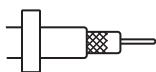
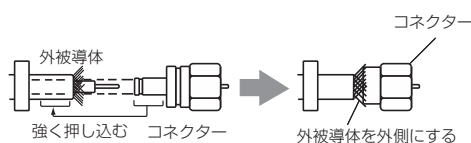
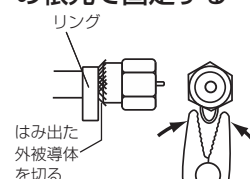
※実際の捺印は、端子の上にあります。

① BS/UV 分波器の UV 出力を本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続する。
② BS/UV 分波器の BS 出力を本機の BS/CS-IF アンテナ入力端子に接続する。(36 もご覧ください)。

お守りください

アンテナ線接続時のご注意

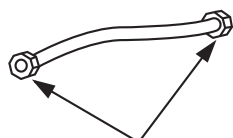
●アンテナ線には、妨害の少ない同軸ケーブルの使用をおすすめします。
（平行フィーダーを使用しますと受信状態が不安定となり、妨害電波を受けやすく、画面にしま模様が現れたりします。）
●やむを得ず平行フィーダーを使用する場合は、本機よりできるだけ離してください。
●室内アンテナ線も妨害電波を受けやすいので、お避けください。
●アンテナに対して、電源コードや他の接続コード類をできる限り離してください。

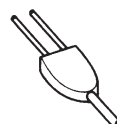
F 形接栓（市販品）の接続

1 先端を加工する

2 リングを通す

3 コネクター先端部を外被導体内側に差し込み、強く押し込む

4 ペンチなどを使い、リングをコネクターの根元で固定する

きれいな映像を楽しむために

きれいな映像をお楽しみいただくには、アンテナ線や各種ケーブル類の接続状態が非常に大切です。

● アンテナ線は同軸ケーブルに F 形接栓を接続して使用することをおすすめします。

同軸ケーブル（市販品）

F 形接栓（市販品）

● BS/UV 分波器・分配器はシールドタイプの使用をおすすめします。

プラスチックタイプ（市販品）　**金属シールドタイプ（市販品）**

CATV ケーブルと接続するときの地上デジタル放送受信について

CATV には、以下のような地上デジタル放送の伝送方式があります。詳しくは、CATV 会社にお問い合わせください。

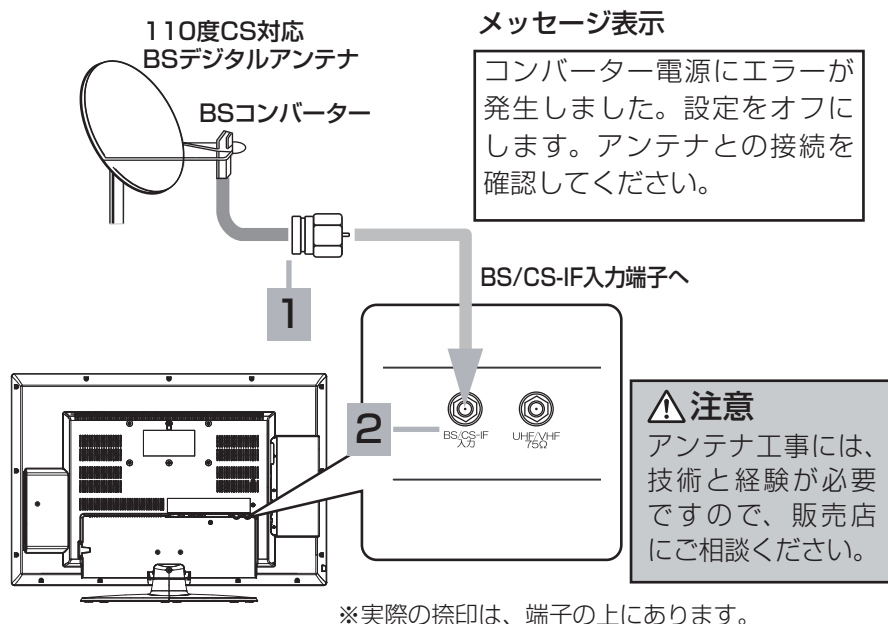
伝送方式	本機の対応
トランスモジュレーション方式	UHF 帯の地上デジタル放送をケーブルテレビ局の電波に変換して伝送します。本機のアンテナ端子に接続しても地上デジタル放送を受信できません。CATV のホームターミナルと接続してください。（51 をご覧ください。）
同一周波数パススルー方式	UHF 帯の地上デジタル放送を変換しないでそのまま伝送します。本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続して地上デジタル放送を受信することができます。
周波数変換パススルー方式	UHF 帯の地上デジタル放送を CATV で伝送可能な別の周波数に変換して伝送します。本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続して地上デジタル放送を受信することができます。

アンテナと接続する

BS/CS アンテナの接続

接続するときには安全のため、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。下記メッセージが表示される場合は、テレビの電源を切ってから 110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナを確認し、もう一度電源を入れてください。現象がなおらない場合は、コンバーター電源を「オフ」に設定 104 して、お買い上げの販売店にご相談ください。

※実際の捺印は、端子の上にあります。

⚠注意
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

1 BS/CS アンテナ線の同軸ケーブルを F 形接栓(市販品)に接続する。 35

UHF、VHF、BS が混合されているときには、BS/UV 分波器 (市販品) が必要です。 34

2 F 形接栓を BS/CS-IF 入力端子に接続する。

BS/CS-IF 入力端子は、BS コンバーターからの信号を受けるための端子です。また、この端子から BS コンバーターに DC + 15V を供給します。BS アンテナ線を接続するときには必ずテレビの電源を切ってください。

お守りください

- 共聴受信等で視聴される（電源供給を必要としない）場合には、「アンテナの設定を変更する」 104 をご覧になって、コンバーター電源の設定を必ず「オフ」にしてご使用ください。
- コンバーターを接続するときは、安全のため、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- BS/CS-IF 入力端子に F 形接栓を接続するときは、手で緩まない程度に締めつけてください。締めつけすぎると本機内部が破損する場合があります。

アンテナ線の接続についてのご注意

衛星放送を分配して他の機器で (衛星放送を) 視聴する場合、分配器は必ず多端子タイプの電流通過形をご使用ください。多端子タイプ電流通過形でない場合は、アンテナに供給している機器の電源を切ると、他の機器で衛星放送が受信できなくなります。

お知らせ

●アナログ CS 用アンテナや従来のスカイパーフェク TV ！用アンテナ（JCSAT-3、JCSAT-4 受信用）はご使用になれません。110 度 CS デジタル放送を受信する場合は、110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナをご使用ください。
●ブースターや分配器をご使用になる場合は、110 度 CS 対応（周波数 2,150MHz 対応以上）であることをご確認の上、ご使用ください。従来の BS 用で周波数帯域が 1,335MHz のものや、CS 対応でも対応周波数が 1,895MHz などの 2,150MHz 未満のものをご使用になった場合、110 度 CS デジタル放送の一部もしくはすべてのチャンネルが受信できない場合があります。
●マンションなどの共同受信システムの場合で、110 度 CS デジタル放送に対応していない場合は、110 度 CS デジタル放送を受信できません。
● BS アンテナを使用する場合は、BS デジタル放送のみの受信が可能です。この場合、従来の BS アンテナのほとんどは使用できますが、一部の BS アンテナでは性能の劣化や BS デジタル放送受信に必要な性能が確保されず、BS デジタル放送を受信したとき、安定した受信ができないことがあります。このようなときは、BS アンテナ製造元のお客様窓口や、BS アンテナを購入した販売店などにお問い合わせください。

メ　モ

BS/CS アンテナ線の接続についてのお願い
● F 形接栓（市販品）をご使用ください。
●アンテナの方向調整、設置についてはアンテナの取扱説明書をご覧いただくか、お買い上げの販売店にご相談ください。

映りがよくないときには
衛星放送の電波は微弱なため、受信するにはアンテナ方向の正確な調整が必要です。もし、時々映像や音声が出なくなったりするときは販売店にご相談ください。また、雷雨や豪雨のような強い雨が降ったり、雪がアンテナに付着すると電波が弱くなり、一時的に画面や音声が止まったり、ひどい場合にはまったく受信できないことがあります。これは、気象条件によるもので、アンテナやチューナーの故障ではありません。

メ　モ

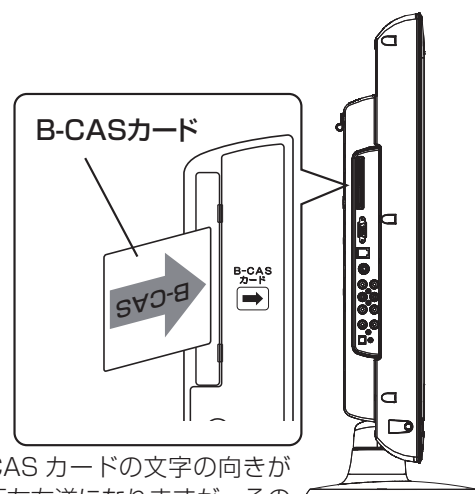
デジタル放送受信レベル確認方法
1. メニューボタンを押します。
2.「各種設定」ー「アンテナ設定」ー「受信レベル」と進みます。
3.「地上デジタル放送」、「BS デジタル放送」、「CS デジタル放送」の中から受信レベルを確認する放送を選びます。
4. 受信レベルが表示されるので、それを見ながらアンテナの方向を調整します。
必要に応じ、チャンネルやビープ音を設定してアンテナを調整してください。受信レベルの目安は 60 以上です。
●受信レベルが 60 未満の場合には、正常に受信できない場合があります。このような場合は、「受信レベル」の数値が最大になるように、アンテナの向きを調整したり、接続状況（接栓・分配・混合など）やブースター等の調整、アンテナの劣化が無いか等を確認してから、再度初期スキャンを行ってください。
●受信レベルは、アンテナ設置方向の最適値を確認するための目安です。表示される数値は、受信 C/N（信号と雑音の比率）の換算値で電波の質を表すもので、強さを表すものではありません。ブースター等の調整でアンテナ信号を過大に増幅した場合に受信レベルが上がらないもしくは受信レベルが下がる場合があります。

B-CAS カードを挿入する (重要)

本機に付属の B-CAS カードは、本機の電源プラグを電源コンセントに接続しない状態で、下記の手順に従って挿入してください。

1 **B-CAS カードを挿入する。**

絵柄表示が見える面を手前にして、B-CAS カード表面の矢印の向きを挿入口へ合わせ、挿入が止まるまでゆっくりと押し込む。

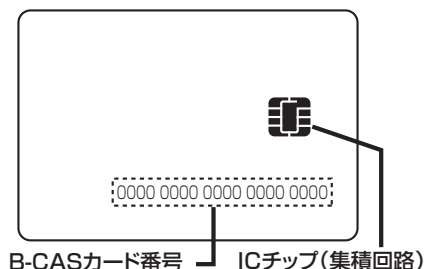
●奥まで確実に挿入してください。

● B-CAS カードの文字の向きが上下左右逆になりますが、そのまま挿入します。

メ　モ

B-CAS カード番号 (カード ID) は、カードを挿入したままでも本機で確認することができます。操作方法は、「インフォメーションの確認」(146) をご覧ください。

B-CAS カードについて

本機に付属の B-CAS カードには 1 枚ごとに違う番号（B-CAS カード番号）が付与されています。B-CAS カード番号はお客様の有料放送契約内容などを管理するために使われている大切な番号です。「(株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ カスタマーセンター」への問い合わせの際にも必要となります。

本機に付属の B-CAS カードの台紙の一部がユーザー登録用はがきになっています。台紙に記載の文面をよくお読みのうえ、ユーザー登録はがきに必要事項をご記入・押印してポストに投かんし、B-CAS カードを必ず登録してください。（登録料は無料です。）

お守りください

B-CAS カード取り扱い上の留意点

● B-CAS カードを折り曲げたり、変形させないでください。
● B-CAS カードの上に重いものを置いたり踏みつけたりしないでください。
● B-CAS カードに水をかけたり、ぬれた手でさわらないでください。
● B-CAS カードの IC（集積回路）部には手をふれないでください。
● B-CAS カードの分解加工は行わないでください。
● B-CAS カードは上記手順をご覧のうえ、本機の B-CAS カード挿入口に、奥まで正しく挿入してください。B-CAS カードを正しく挿入しないと、有料放送や一部のデータ放送を視聴することができません。
●ご使用中に B-CAS カードの抜き差しはしないでください。デジタル放送が視聴できなくなる場合があります。

B-CAS カードを抜くとき

万一、抜く必要があるときは、本機の電源プラグを電源コンセントから抜いたあと、ゆっくり B-CAS カードを抜いてください。B-CAS カードには IC (集積回路) が組み込まれているため、画面に B-CAS カードに関するメッセージが表示されたとき以外は、抜き差しをしないでください。

お知らせ

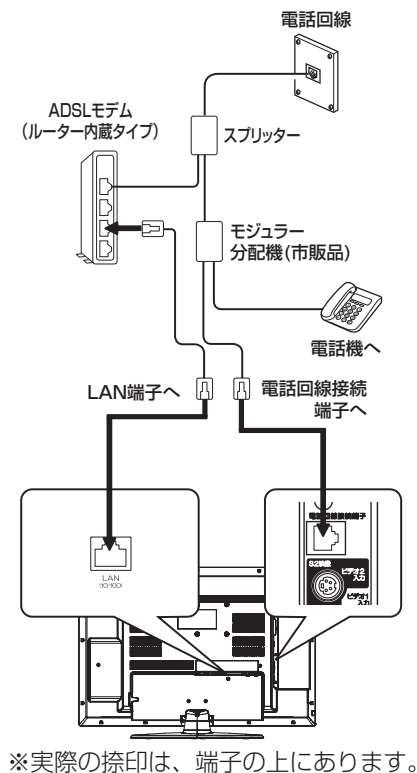
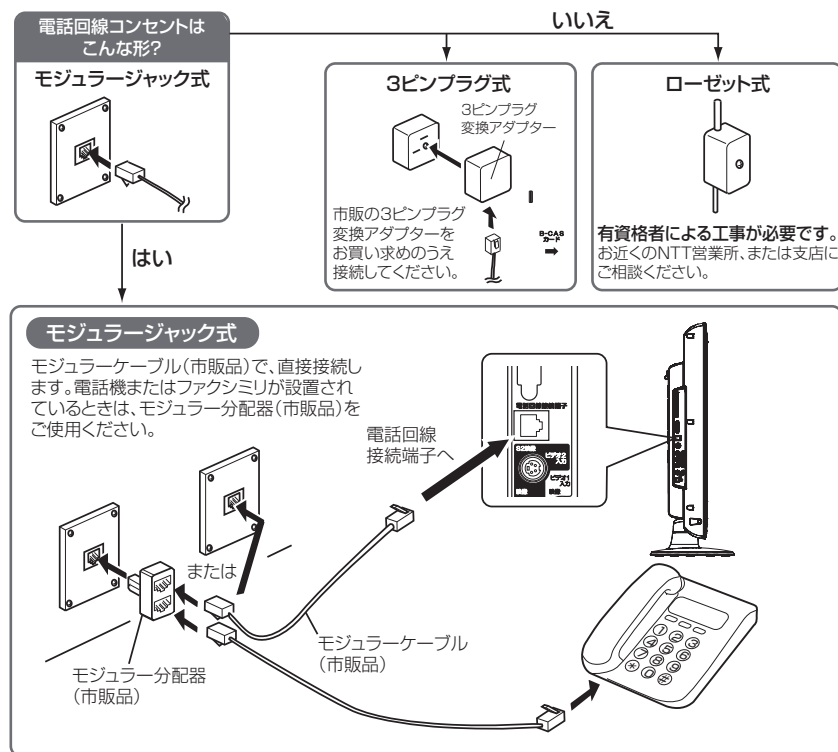
●本機専用の B-CAS カード以外のものを挿入しないでください。故障や破損の原因となります。
●裏向きや逆方向から挿入しないでください。挿入方向を間違うと B-CAS カードは機能しません。
● WOWOW、スターチャンネルなどの有料サービスを受けるには、B-CAS カードの登録のほかに個別の受信契約が必要になります。詳しくはそれぞれの有料放送を行う放送局のカスタマーセンターにお問い合わせください。

電話回線と接続する

本機は、モジュラージャック式のジャックから電話回線に直接接続できるようになっています。
ご使用の電話回線コンセントがモジュラージャック式でない場合は、変換アダプターまたは工事が必要です。

重要 ホームテレホンやビジネスホンをご使用の場合は、販売店か NTT 営業所、または支店にご相談ください。

電話回線コンセントの種類をご確認ください。

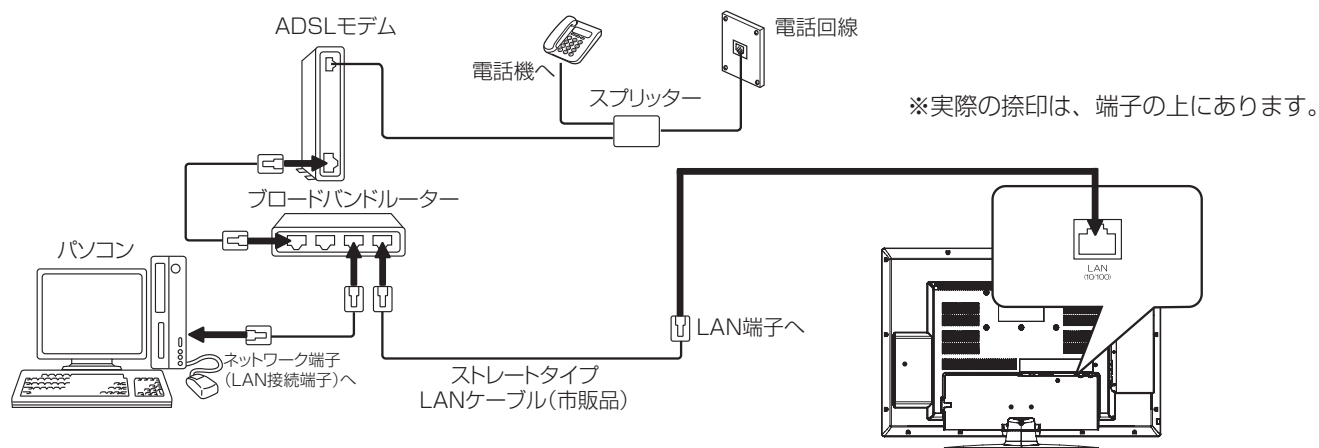
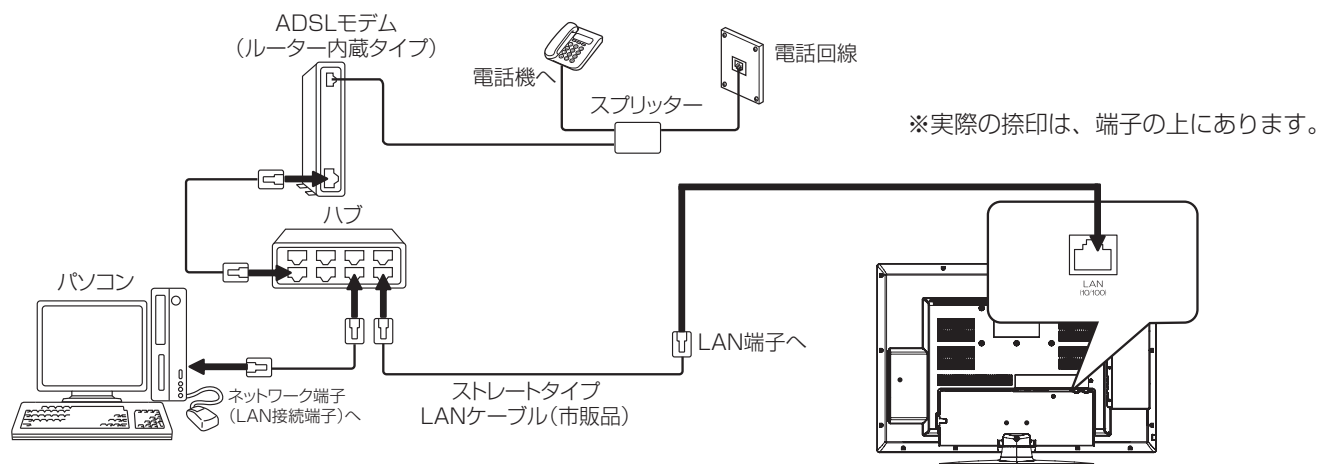
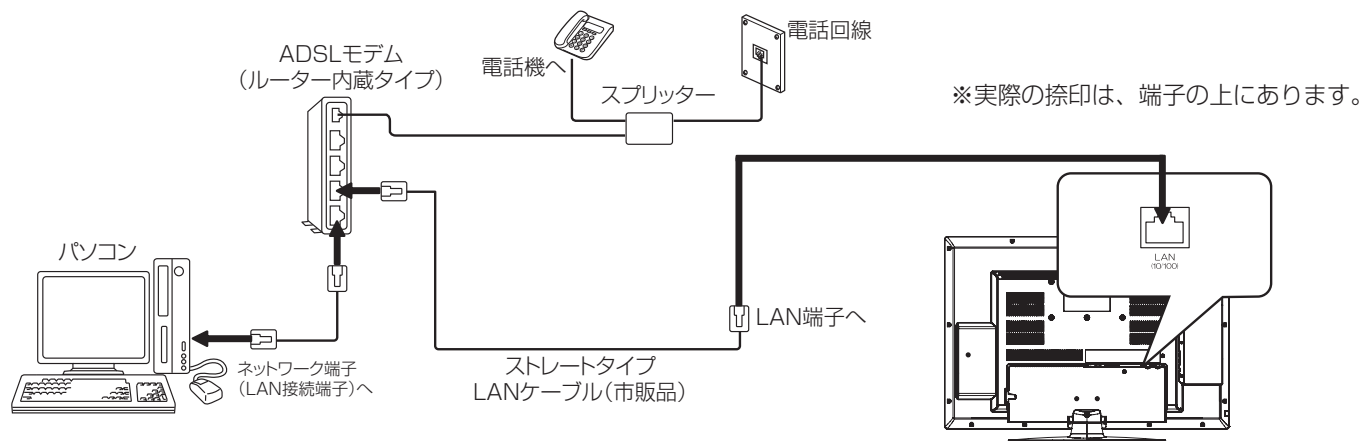
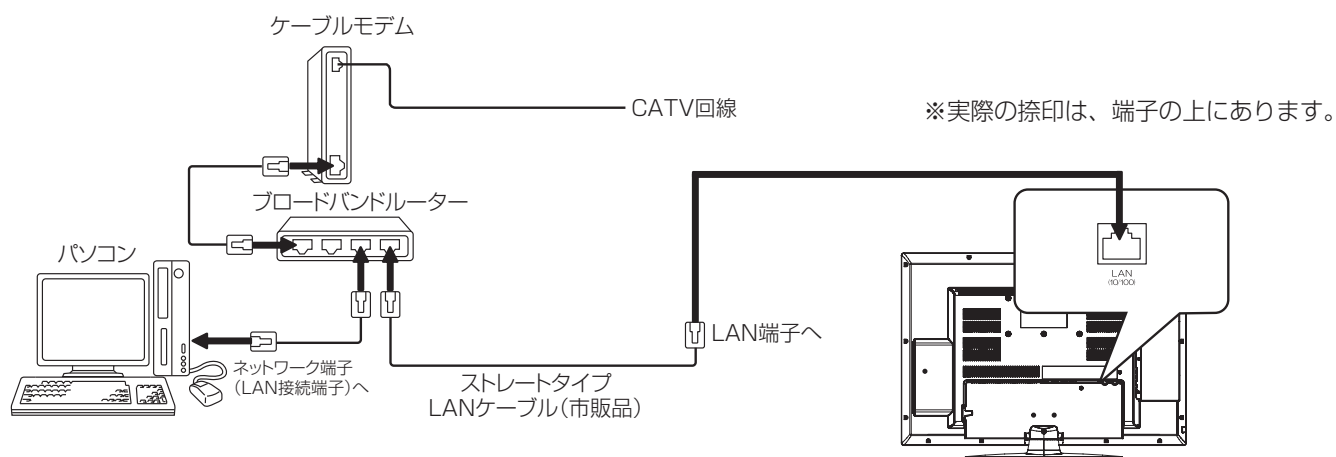
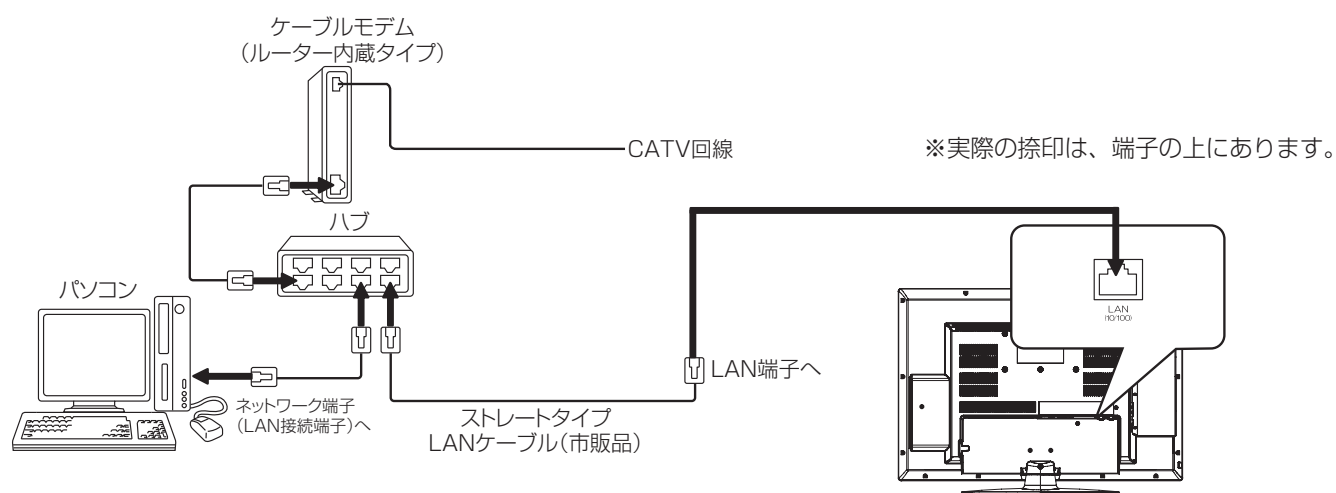
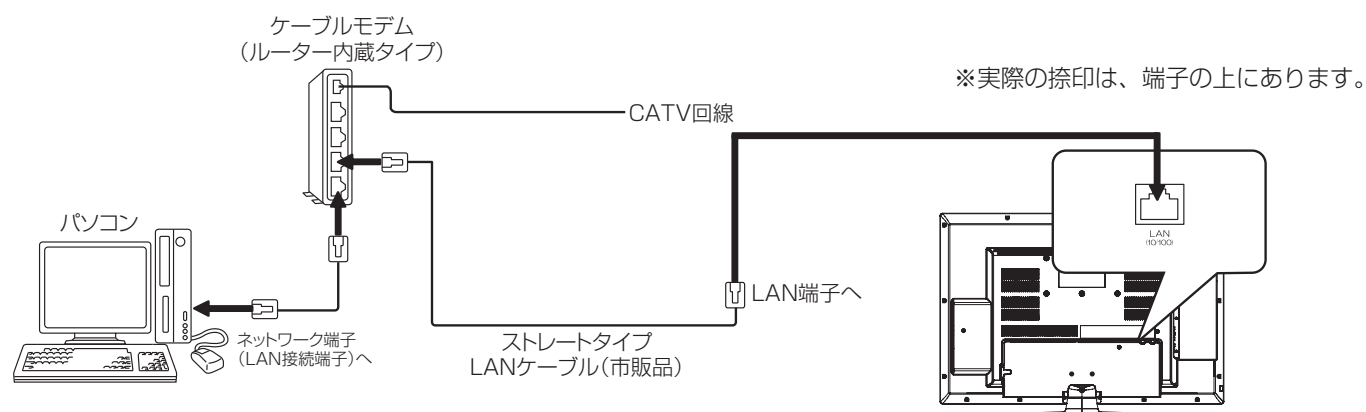
※実際の捺印は、端子の上にあります。

ADSL 回線を使用される場合の接続例

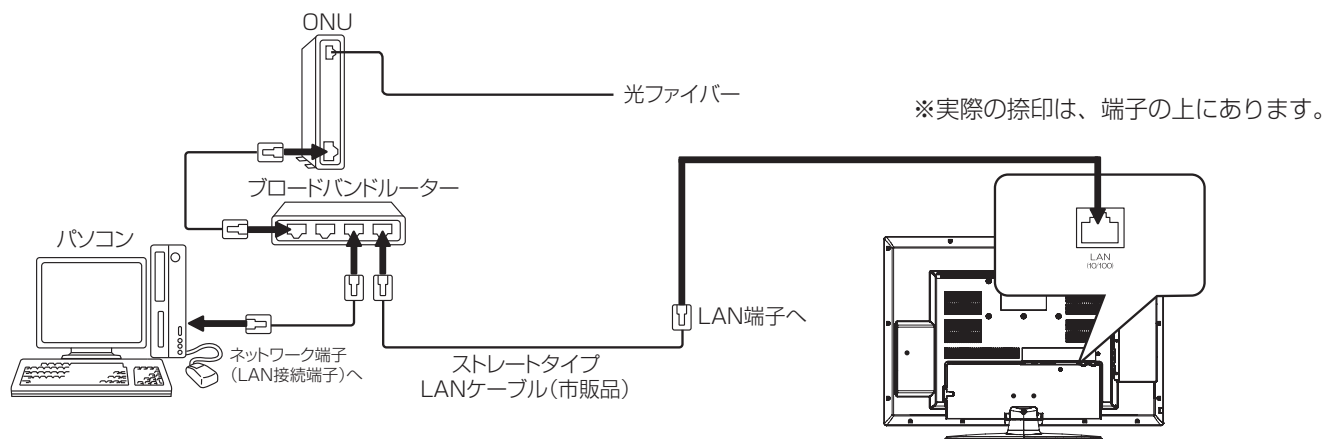
お知らせ

- ISDN 回線でご使用になる場合は、ターミナルアダプターの取扱説明書をよくご覧になってください。ターミナルアダプターの種類によっては、うまく通信できないことがあります。詳しくは、ターミナルアダプターの製造元にお問い合わせください。ADSL でご使用になる場合も、うまく通信できないことがあります。
- ADSL 回線で本機を利用する場合、本機はスプリッターの電話回線側に接続してください。正しく接続しないと、正常に通信ができません。
- ケーブル電話などでは、うまく通信できないことがあります。詳しくは、ケーブル電話会社にお問い合わせください。
- 6 極 4 芯タイプの電話機の中で、NTT 仕様に準拠していない機器は、ご使用になれません。
- コードをはずすときは、プラグを持ち、ツメを押しながら抜いてください。また、プラグを差し込むときは、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
- 公衆電話、共同電話、地域集団電話、自動車電話、携帯電話、PHS、船舶電話には接続できません。
- キャッチホン契約されている場合は、本機が通信していても、キャッチホンが優先されます。
- ファクシミリが接続されている場合は、ファクシミリの送受信中に本機が通信を行うと、ファクシミリのデータが正しく送受信できない場合があります。
- モジュラー分配器を使用して、電話機などを接続している場合、本機が通信するとき電話機から呼出音がなる場合があります。このような場合には、市販の自動転換器をご使用になることをおすすめします。

LAN インターフェースと接続する

本機では、デジタル放送の新しい双方向データサービスに対応するため、インターネット網に常時接続環境で接続する LAN インターフェースを装備しています。なお、一般のインターネットの Web サイトを見ることはできません。
ご使用の環境に応じて、下記のように接続してください。

ADSL の場合（1）：ADSL モデム（ルーター非内蔵タイプ）との接続

ADSL の場合（2）：ADSL モデム（ルーター内蔵タイプ）との接続（LAN 接続端子に空きがない場合）

ADSL の場合（3）：ADSL モデム（ルーター内蔵タイプ）との接続（LAN 接続端子に空きがある場合）

CATV の場合（1）：ケーブルモデム（ルーター非内蔵タイプ）との接続

CATV の場合（2）：ケーブルモデム（ルーター内蔵タイプ）との接続（LAN 接続端子に空きがない場合）

CATV の場合（3）：ケーブルモデム（ルーター内蔵タイプ）との接続（LAN 接続端子に空きがある場合）

LAN インターフェースと接続する

FTTH の場合：ONU またはメディアコンバーター（ルーター非内蔵タイプ）との接続

お守りください

●電話用のモジュラーケーブルは、LAN 端子の接続には使用できません。無理に挿入すると故障の原因となります。

お知らせ

● ADSL モデムやケーブルモデムとブロードバンドルーターやハブの接続については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。
●双方向データサービスをご利用になるときは、電話回線の接続 78 も行なってください。
地上･BS デジタル放送では､インターネット網への接続により､さらに多様な双方向データサービスを利用することができます。
●本機はプロクシサーバーの設定には対応していません。
●本機でインターネット網に接続するには、回線業者やインターネットサービスプロバイダーとの契約が必要です。未契約の場合は、回線業者やプロバイダーと契約してください。
●回線業者やインターネットサービスプロバイダーとの契約によっては、本機やパソコンなどの端末を複数台接続できない場合や、追加料金が必要な場合があります。
●本機は、アナログモデムおよび ISDN によるダイヤルアップ接続には対応しておりません。
●本機は、10BASE-T/100BASE-TX 規格に準拠した LAN インターフェースを装備しておりますので、この規格に準拠した LAN ケーブルを使用してください。
● ADSL モデムやスプリッター、ケーブルモデム、ブロードバンドルーター、ハブ、ケーブルなどは、回線業者やインターネットサービスプロバイダーとの契約をご確認の上、指定された製品を使って、接続や設定を行ってください。
● ADSL モデムやケーブルモデムについてご不明な点は、ご利用の ADSL 回線業者や CATV 事業者またはインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。
●ブロードバンドルーターに固定 IP で接続されている場合は、ISP 設定について 85 で「IP アドレス取得」を「手動」に選択し、必要な項目を設定してください。
●ブロードバンドルーターによっては、パソコンによる設定が必要な場合があります。このようなルーターを使用する場合は、パソコンを接続して設定を行ってください。
●本機では、アナログモデムによるインターネット接続を前提とするデータ放送サービスはご利用できません。
●本機では、一般のインターネットの Web サイトを見ることができません。

メ　モ

ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line) について

従来の電話用メタリックケーブル上で実現される高速デジタル伝送方式の一つです。すでに一般家庭に広く普及している電話線を使って、インターネットへの高速で安価な常時接続環境を提供する技術であり、現在、インターネット常時接続の主流となりつつあります。

FTTH(Fiber To The Home) について

光ファイバーを家庭まで直接引き込み、超高速･広帯域の通信環境を提供するサービスのことです。2001 年から NTT 東日本･西日本が光ファイバーによる常時接続サービスの B フレッツを開始しています。CATV や ADSL を超える高速通信が可能です。

ONU(Optical Network Unit) とメディアコンバーターについて

光ファイバー加入者通信網における､パソコンなどの端末機器をネットワークに接続するための装置で､加入者宅に設置されます。

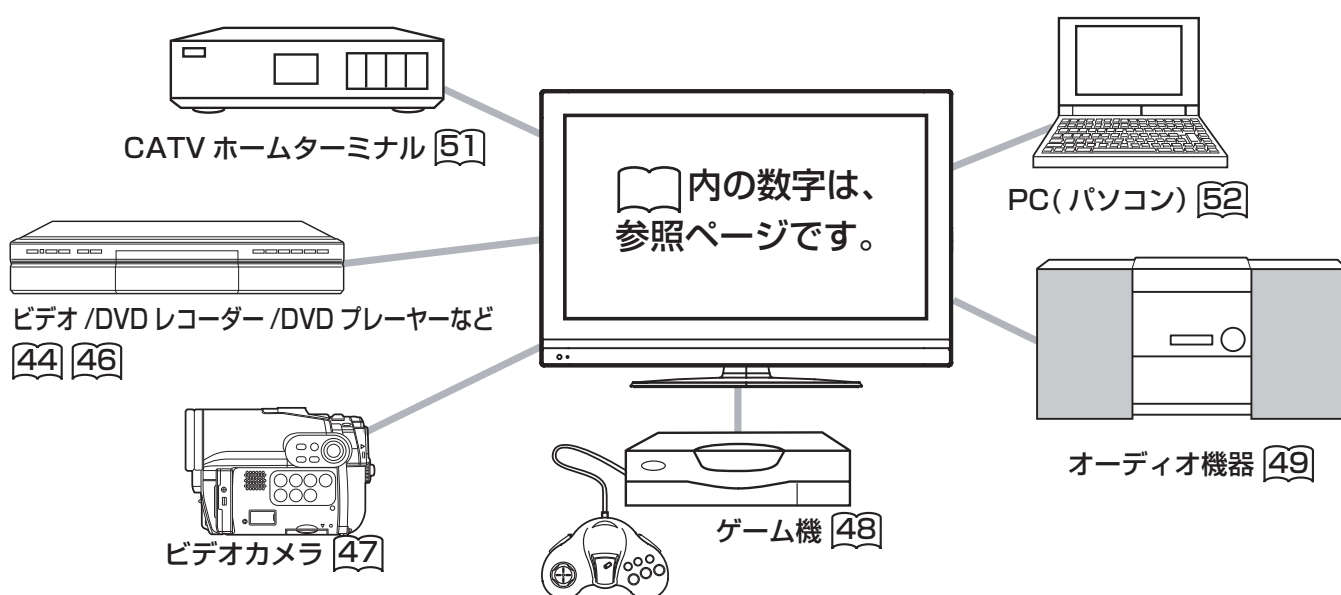
お手持ちの機器と接続する

お守りください

接続時のご注意

●他の機器と組み合わせてご使用になるときにはそれぞれの取扱説明書をよくお読みください。
●接続の際は各機器の電源を切ってから行ってください。電源を入れた状態で接続すると、大きな音が出たり故障の原因となることがあります。
●他の機器との接続時、入出力端子をまちがえて接続すると、故障の原因になりますのでご注意ください。
●接続する他の機器、接続コードおよびアンテナ線が、テレビの画面または画面の後面に配置されますと、映像がゆれたり妨害を受ける恐れがあります。接続機器、接続コードおよびアンテナ線は上記の配置を避けてください。

接続できる機器

（下記から入力端子数に合わせて、お選びください。）

メ　モ

ご使用になる外部機器や接続方法に合わせて設定することができます。外部機器と接続したときの設定 108 をご覧ください。

システムアップに必要な接続コード

これらと同等のコードが相手側の機器に付属している場合には、新しく購入される必要はありません。

●映像・音声信号入出力接続コード VS-120G(コード長 2m)

主に Hi-Fi ビデオの映像・音声入出力端子との接続に使用します。

●映像・音声信号入出力接続コード VS-315G(コード長 1.5m)

主にモノラルビデオの映像・音声入出力端子との接続に使用します。

●映像信号入出力接続コード VS-220G(コード長 2m)

主にビデオの映像入出力端子との接続に使用します。

● HDMI ケーブル (市販品)

HDMI ケーブルは、HDMI ロゴ表示のあるケーブルを使用してください。

●音声信号入出力接続コード AR-115G(コード長 1.5m)

主に Hi-Fi ビデオの音声入出力端子との接続､ステレオ装置との接続に使用します。

● S 映像・音声信号入出力接続コード (市販品)

S 映像・音声入出力端子との接続に使用します。

● D 端子ピンケーブル TP-CDP01(コード長 1.5m)

DVD プレーヤーのコンポーネントビデオ出力との接続に使用します。

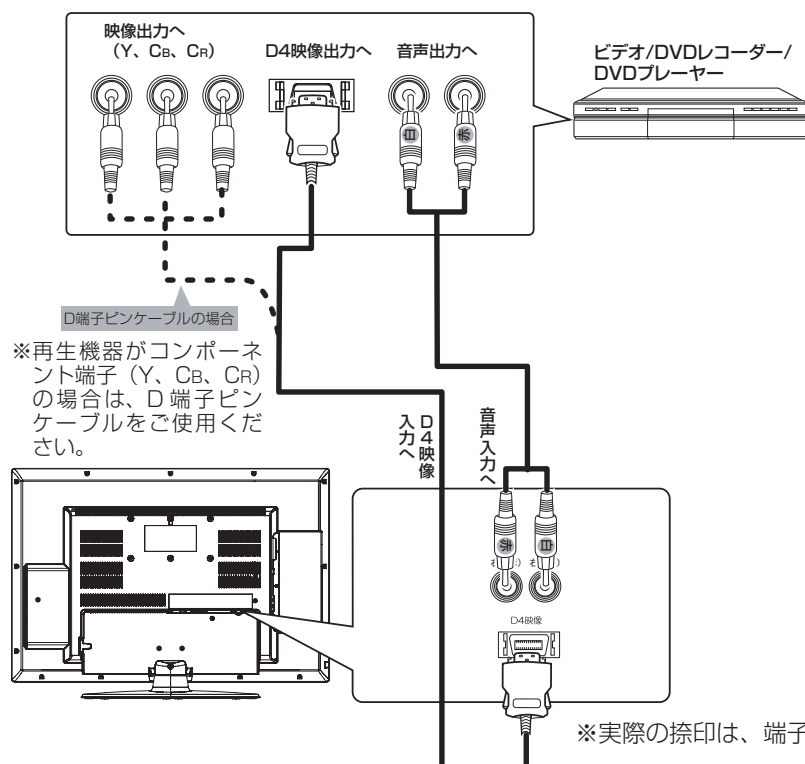
● D 端子ケーブル TP-CDD02(コード長 1.5m)

D 端子対応機器との接続に使用します。詳しくは、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

お手持ちの機器と接続する

ビデオ、DVD レコーダー、ＤＶＤプレーヤーなどと接続する

D 端子付の再生機器をご使用のときは、D 端子ケーブルで接続されることをおすすめします。より良い画質でお楽しみいただけます。

コンポーネントビデオ出力端子のある場合

1　入力切換ボタンで「ビデオ 1」を選択する。

ビデオ 2 入力に接続したときは「ビデオ 2」を選択します。

2　接続している機器を操作する。

お知らせ

- ●接続時は必ず各機器の電源を切ってください。（市販の接続コードをご使用ください。）
- ●アンテナ線は本機と再生機器両方に接続します。受信方式などの違いによって、接続のしかたが異なりますので、詳しくは再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ●再生機器の U/V アンテナ出力端子から本機の U/V アンテナ入力端子に接続すると、地上デジタル放送が正しく受信できない場合がありますので、この接続方法はおすすめできません。
- ●ビデオ 1 入力は、後面の D4 映像入力および音声入力、左側面の映像入力および音声入力が共用となっています。信号のあるほうに自動的に切り換り両方が接続されているときは、後面の D4 入力および音声入力が優先します。
- ●ビデオ 2 入力は、左側面の S2 映像入力と映像入力の共用となっています。両方が接続されているときは、S2 映像入力および音声入力が優先します。

D 端子ピンケーブル使用時のご注意

D 端子ピンケーブルをご使用になる場合は、映像信号により正しく表示されないことがあります。このような場合は、メニューの「映像設定」「オートワイド」を「オフ」に設定 140 してください。お買い上げ時には、「オン」に設定されています。

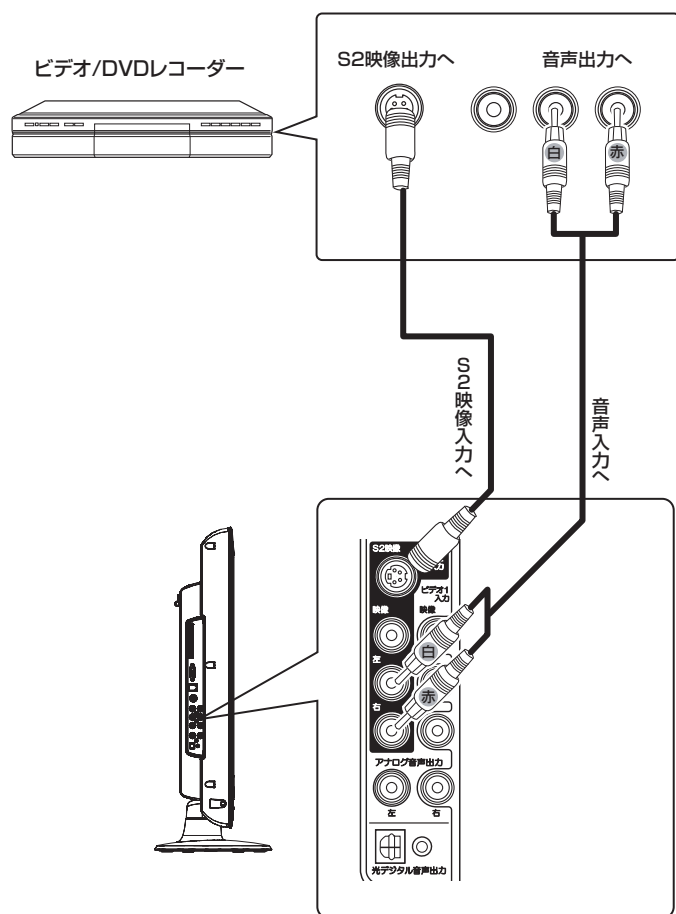
録画機器接続時のご注意

デジタルチューナーなどの著作権保護された番組の映像をビデオ、DVD レコーダーなどの録画機器を通して入力すると、著作権保護技術によって、映像が正しく表示されない場合があります。このような場合は、録画機器を通さずに、本機のビデオ入力端子に直接接続してください。

メ　モ

コンポーネント入力端子について（ビデオ 1）

コンポーネント入力端子（D4 映像）は DVD プレーヤーおよび将来実用化予定のデジタル機器のコンポーネント映像信号（525i（480i）、525p（480p）、1125i（1080i）、750P（720P）信号）を接続できます。1125i（1080i）、750P（720P）信号を入力時は、映像を適切な画面サイズに自動的に切り換えます。

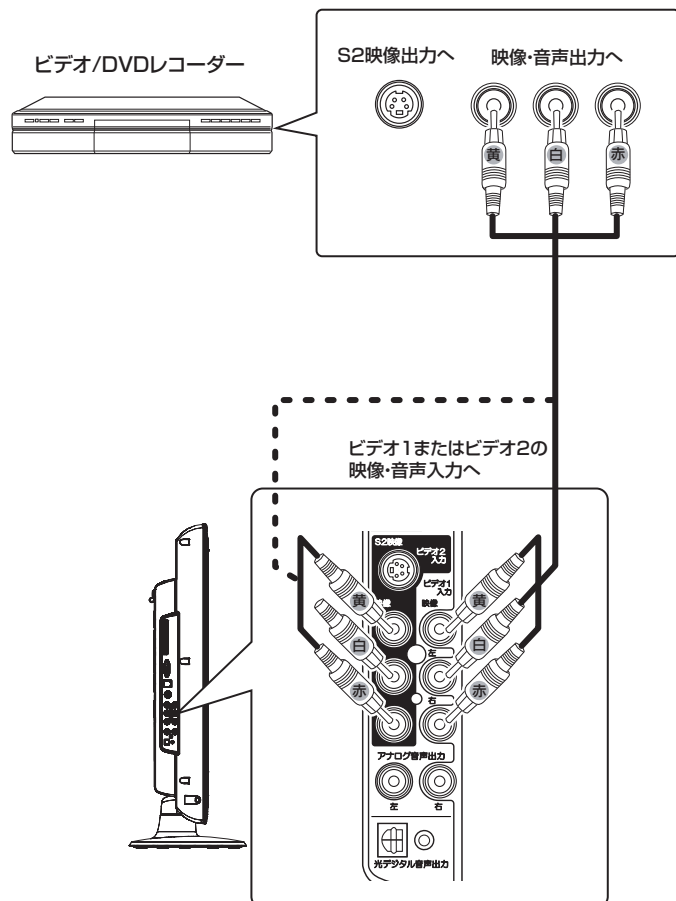
S2 映像出力のある場合

1 入力切換ボタンで「ビデオ 2」を選択する。

2 接続している機器を操作する。

メ モ

S2 映像端子について

明るさの信号と色の信号を分けて送る信号用の端子です。S2 映像入力端子と映像入力端子が両方接続されている場合は、S2 映像が優先されます。本機はフルモード制御信号の入った映像が、ビデオ 2 の S2 映像入力端子より入力されるとワイドモードは自動的にワイド画面一杯に表示されます。

コンポーネントビデオ出力端子、S2 映像端子のない場合

1 入力切換ボタンで「ビデオ 1」または「ビデオ 2」を選択する。

2 接続している機器を操作する。

お手持ちの機器と接続する

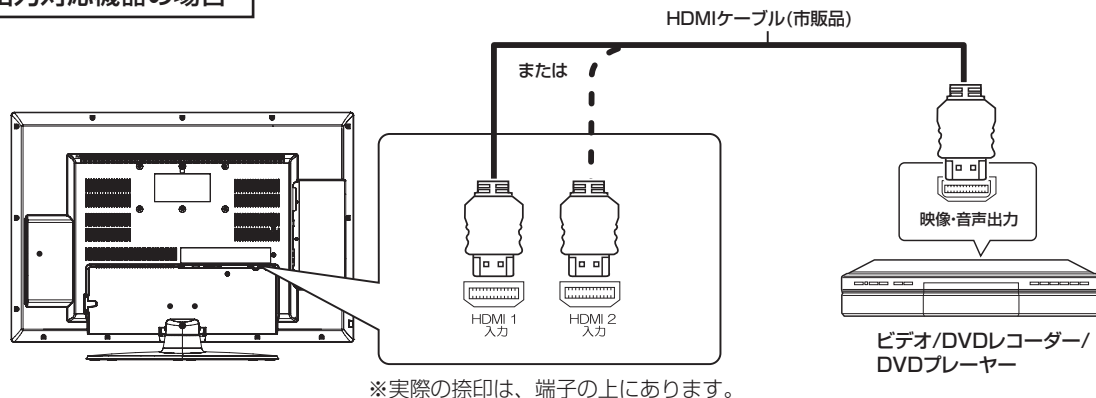
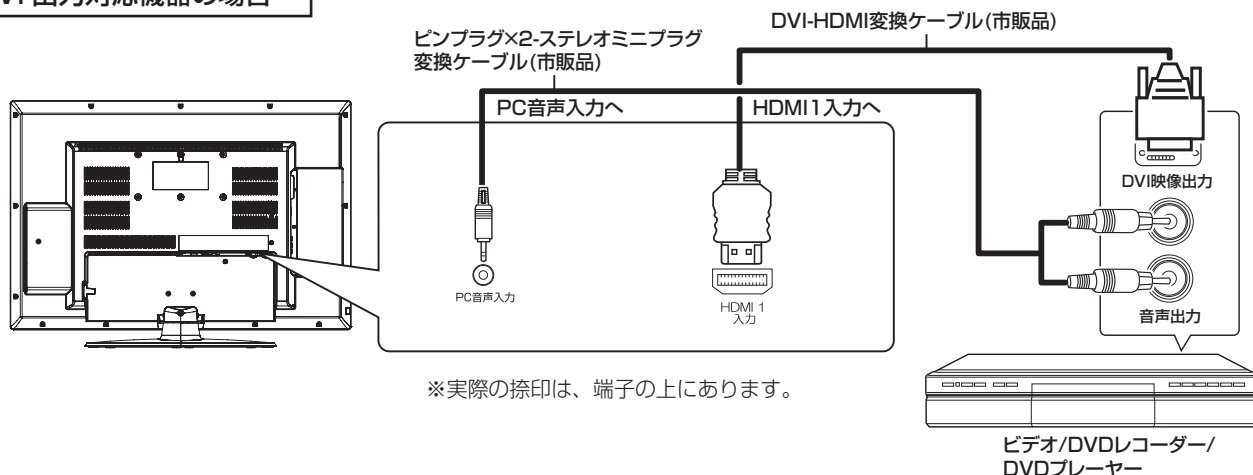
HDMI 出力対応の DVD レコーダーなどと接続する

本機は、HDMI 出力対応機器との接続ができます。

HDMI 出力対応機器の場合

※実際の捺印は、端子の上にあります。

DVI 出力対応機器の場合

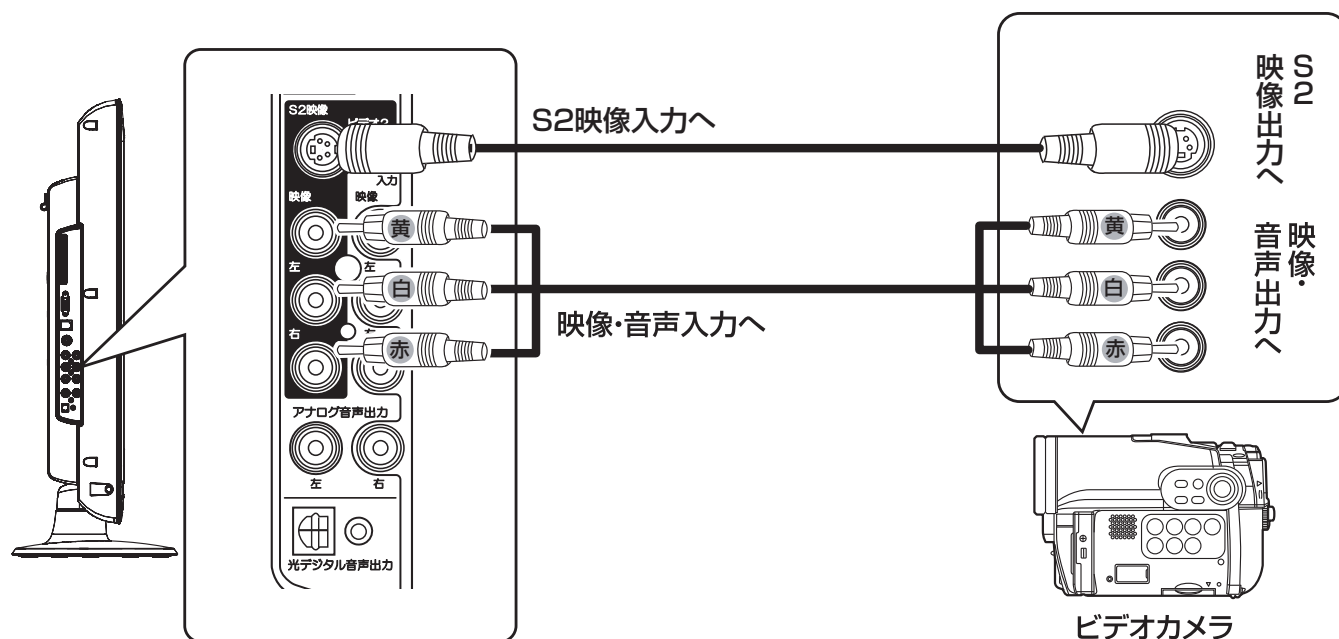
※実際の捺印は、端子の上にあります。

1 入力切換ボタンで「HDMI1」または「HDMI2」を選択する。

HDMI2 入力に接続したときは「HDMI2」を選択します。
DVI 出力対応機器を接続した場合は、メニューより「その他機器設定」ー「外部入力設定」ー「HDMI 入力設定」と進み、「PC」を選択します。

2 接続している機器を操作する。

お知らせ

- HDMI 規格に適合していないケーブルは使用できません。HDMI ロゴの表示があるケーブルを使用してください。
- 本機は HDMI 出力対応機器との接続ができますが、一部の機器では映像や音声がでないなど正常に動作しない場合があります。
- 出力する機器側の信号切り換えや操作により画面や音声にノイズが入る場合がありますが、故障ではありません。
- HDMI1、2 入力は、リモコンまたは本体の入力切換ボタンで選択することができます。
- 対応する信号について
  映像信号：525i(480i) ※、525p(480p)、1125i(1080i)、750p(720p)　※HDMI 信号のみ
  音声信号：リニア PCM
  　　　　　サンプリング周波数 32kHz/44.1kHz/48kHz

ビデオカメラと接続する

1 入力切換ボタンで「ビデオ 2」を選択する。

画面に「ビデオ 2」の表示が出ます。

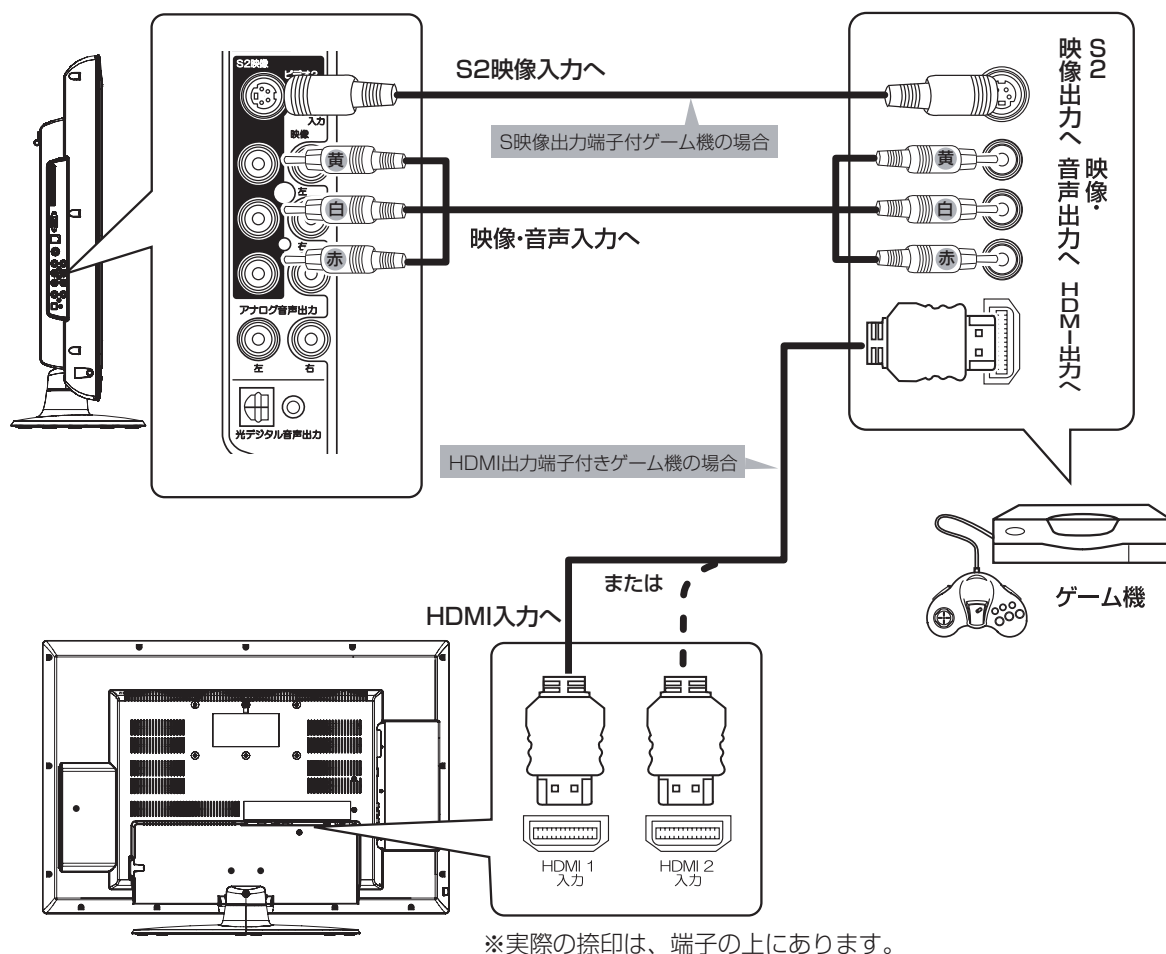
入力切換

ビデオ入力2:ビデオ入力2

2 ビデオカメラを操作する。

お手持ちの機器と接続する

ゲーム機と接続する

※実際の捺印は、端子の上にあります。

1 テレビゲーム本体と「ビデオ 2」、または「HDMI1」または「HDMI2」入力端子を接続する。

2 入力切換ボタンで「ビデオ 2」、または「HDMI1」を選ぶ。

テレビに戻すときは、チャンネルボタンを押します。

3 ゲーム機を操作する。

お知らせ

●ビデオ入力端子に入力された映像、音声信号はわずかに時間が遅れて画面表示、スピーカー出力されます。入力された信号をデジタル処理しているために遅れが発生するもので、故障ではありません。

・ゲーム機のコントローラを使用される場合は、コントローラの操作に対して、画面がわずかに遅れて表示されます。

・カラオケ機器などをビデオ入力端子に接続した場合、カラオケ機器本体のスピーカー音声に対して、テレビのスピーカー音声がわずかに遅れて出力されます。

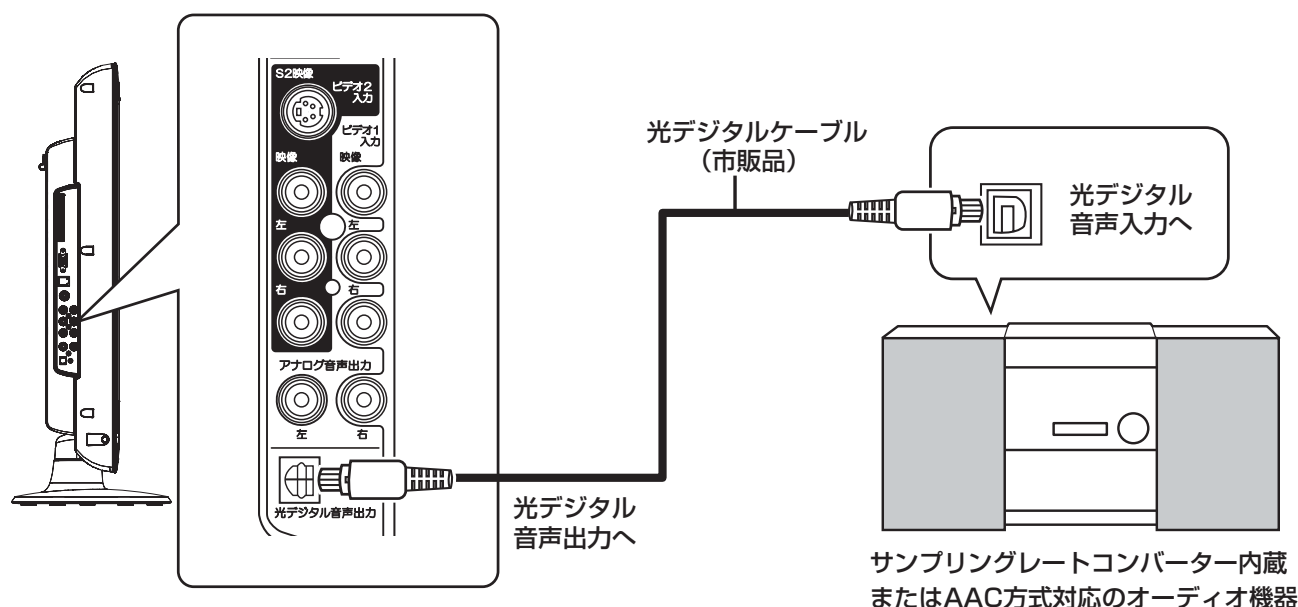
●ゲームの種類・内容によっては、画面が欠ける場合があります。

●ライフルタイプやガン（銃）タイプのコントローラーを使用するシューティングゲームなどは、本機では使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトおよびコントローラーの取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器と接続する

本機の光デジタル音声出力端子に、デジタル音声入力端子付きのオーディオ機器を接続することができます。

デジタル音声入力端子付オーディオ機器と接続する場合

デジタル放送受信時には、MPEG-2 AAC 方式で出力することもできるので、AAC 方式対応のオーディオ機器と接続することで 5.1 チャンネルサラウンド音声の番組を臨場感あふれる音声でお楽しみいただけます。

お知らせ

- 本機の光デジタル音声出力端子はフタでふさがっていますが、ドアのようになっています。光デジタルケーブルのプラグ部を持って、そのままゆっくりと端子にまっすぐに差し込んでください。
- 本機は、放送局側の音声サンプリング周波数に対応した光デジタル音声信号を出力します。このため、AAC 方式対応のオーディオ機器以外では、サンプリングレートコンバーターを内蔵したアンプや MD レコーダーなどに接続してください。
- デジタル番組（AAC）は音声切換ボタンを押しても、光デジタル音声出力の音声は変わりません。
- AAC 方式の出力をご利用になるには、「メニュー」の「音声設定」の「デジタル音声出力」を「AAC」に設定する必要があります。(139)（お買い上げ時は、「PCM」に設定されています。）
- 地上アナログ放送やビデオ入力をご覧になっているときの光デジタル音声は、「メニュー」の「デジタル音声出力」の設定にかかわらず「PCM」方式で出力します。

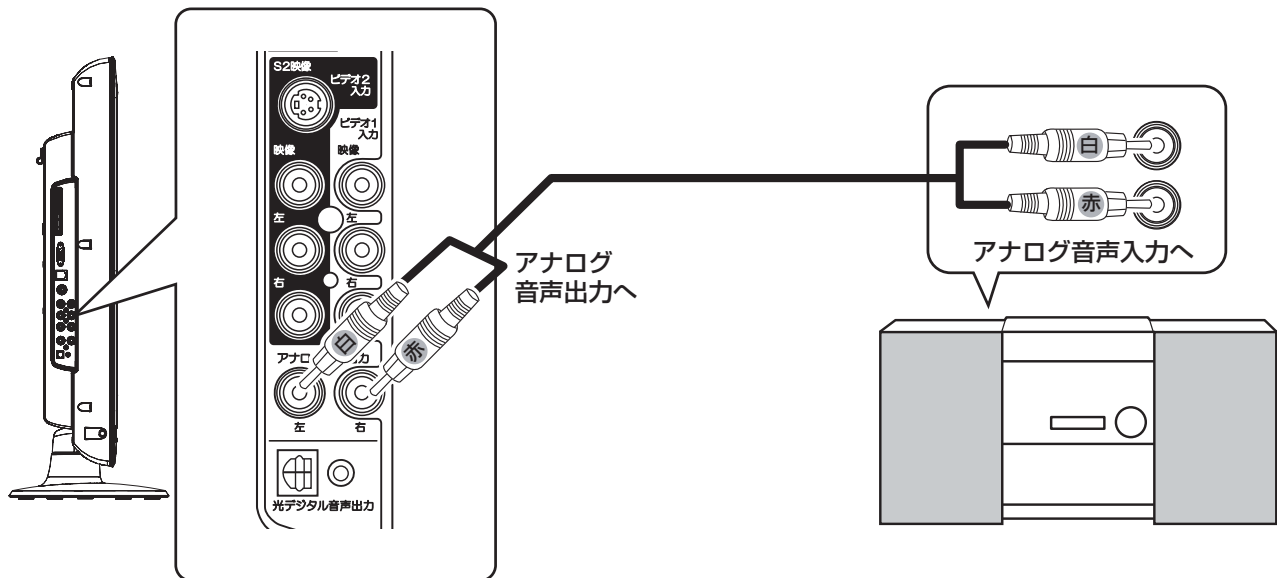
メ　モ

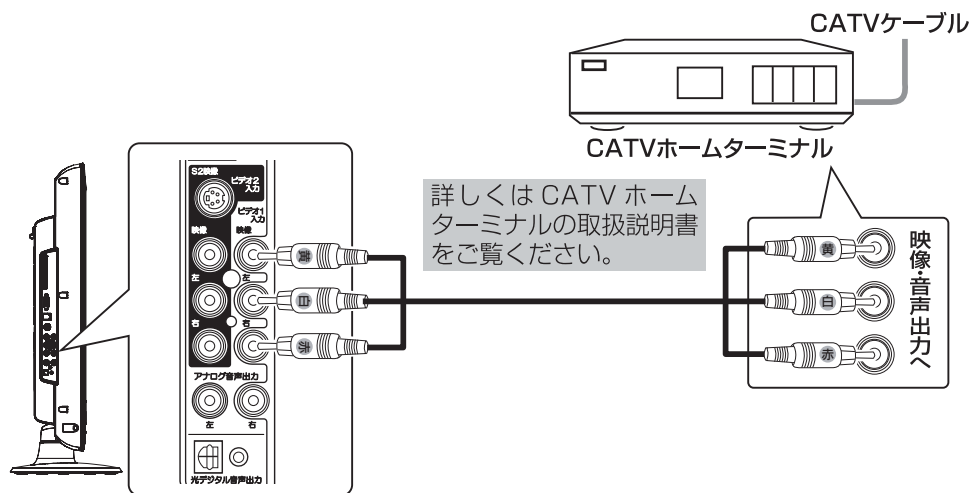
AAC（Advanced Audio Coding）について

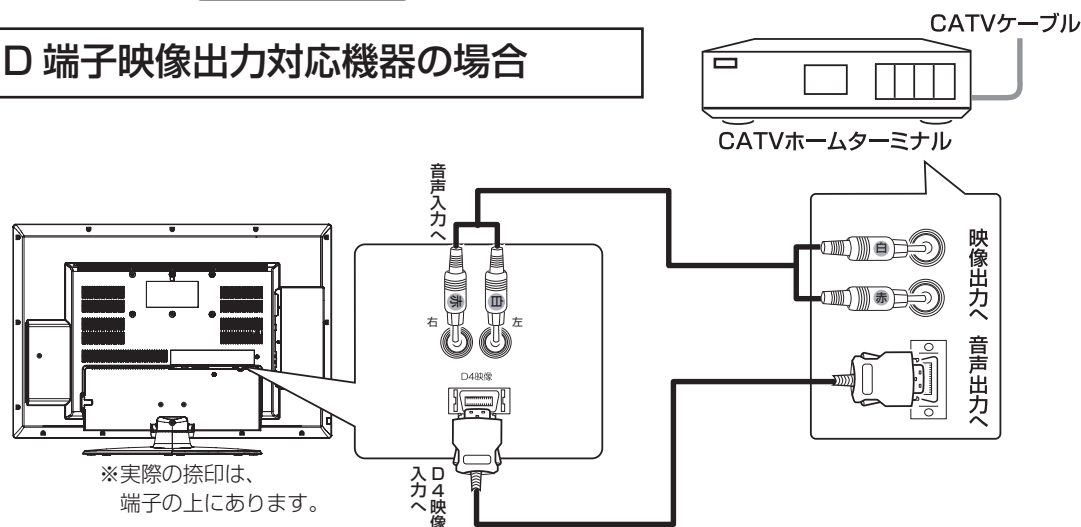
AAC とは、音声符号化の規格の一つです。AAC は、CD（コンパクトディスク）並の音質データを約 1/12 にまで圧縮できます。また、5.1 チャンネルのサラウンド音声や多言語放送を行うこともできます。

お手持ちの機器と接続する

オーディオ機器と接続する

デジタル音声入力端子のないオーディオ機器と接続する場合

CATV ホームターミナルと接続する

CATV の受信は、サービスが行われている地域でのみ受信が可能です。また、使用する機器ごとに CATV 会社との受信契約が必要になります。なお、有料放送や BS/110 度 CS/ 地上デジタル放送をご覧になるときは、ホームターミナル (セットトップボックス) が必要です。地上デジタル放送がパススルー方式 35 で送信されている場合は、本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続して受信することもできます。詳しくは、CATV 会社にご相談ください。

D 端子映像出力対応機器の場合

メ モ

コンポーネント入力端子について（ビデオ 1）

●コンポーネント入力端子（D4 映像）は、D 端子映像出力対応機器や将来実用化予定のデジタル機器の D 映像信号を接続できます。本機は D 映像信号の 525i（480i）、525p（480p）、1125i（1080i）、750P（720P）に対応しています。1125i（1080i）、750P（720P）信号を入力時は、映像を適切な画面サイズに自動的に切り換えます。

●詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

1 入力切換ボタンで「ビデオ 1」を選択する。

2 CATV ホームターミナルを操作する。

詳しくは CATV ホームターミナルの取扱説明書をご覧ください。

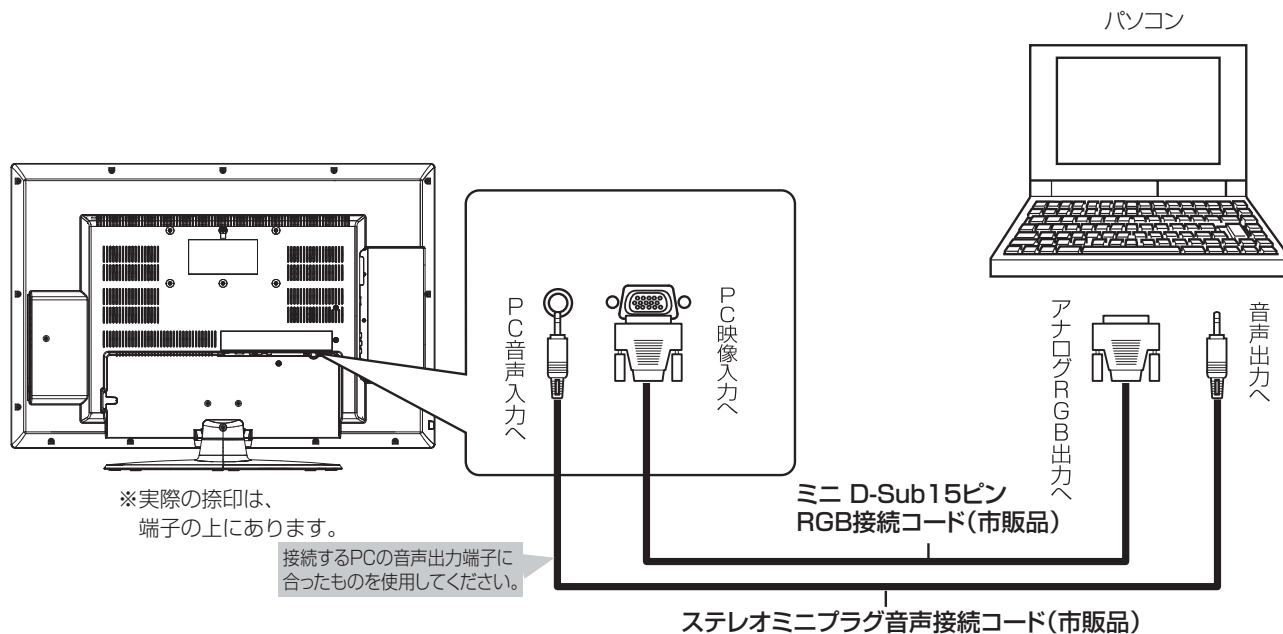
お知らせ

将来発売予定の機器との接続について

テレビ関連機器の中には現在開発中で数年後に実用化されると思われる機器がいくつかあり、システムアップが可能となります。使いかたなど、詳しくは各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

お手持ちの機器と接続する

PC（パソコン）と接続する

本機の PC 入力端子に PC（パソコン）を接続することにより、PC（パソコン）の映像・音声を楽しむことができます。

お知らせ

●パソコンを接続するときは、RGB 接続コード（市販品）が必要です。パソコンによっては、パソコンでオプション設定されている変換コネクタが必要な場合があります。RGB 接続コードに付属されたネジなどにより、本機にしっかりと取り付けることをおすすめします。

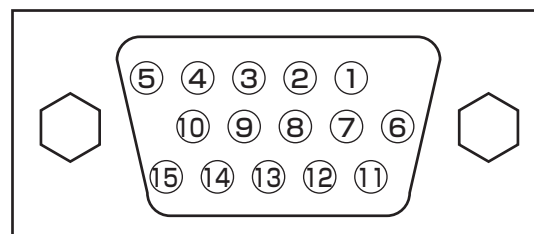
推奨信号について

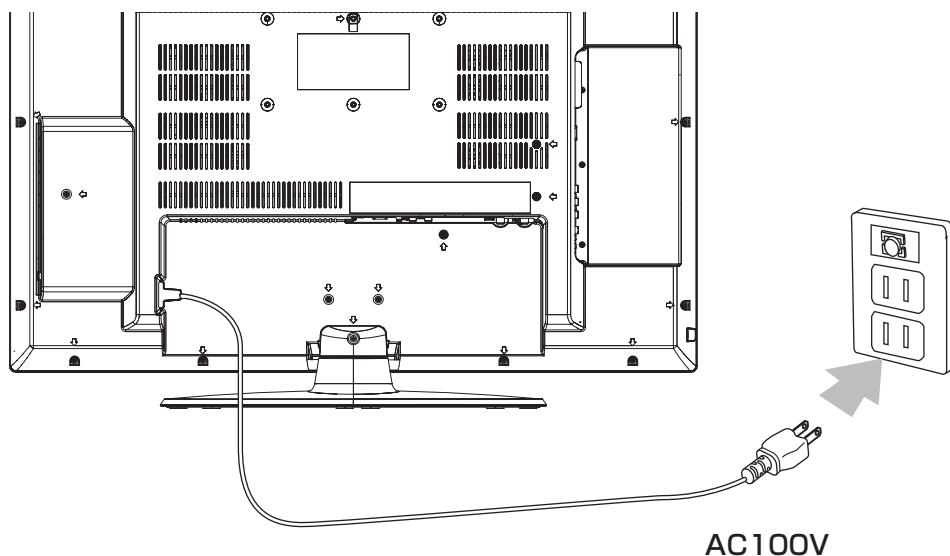
信号名	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	ドットクロック 周波数 (MHz)
VGA	640 x 480 @ 60Hz	31.47	59.94	25.18
VESA	800 x 600 @ 60Hz	37.88	60.32	40.00
VESA	1024 x 768 @ 60Hz	48.36	60.00	65.00
VESA/WXGA モード : 1280 x 768	1280 x 768 @ 60Hz	47.78	59.87	79.50

●使用するビデオボードや接続ケーブルにより、正しく表示できないことがあります。この際には、垂直位置、水平位置、クロック、位相を調節してください。
●本機では、水平周波数、垂直周波数、水平同期信号極性、および垂直同期信号極性によって信号モードを区別します。これら全ての要素が同じかきわめて似ている場合には、異なる信号であっても同一の信号として扱われる場合がありますのでご注意ください。

PC(RGB) 入力端子ピン配置

ピン No.	信号
1	R ビデオ
2	G ビデオ
3	B ビデオ
4	(接続無し)
5	(接続無し)
6	R グランド
7	G グランド
8	B グランド
9	DDC +5V
10	グランド
11	(接続無し)
12	DDC データ
13	水平同期
14	垂直同期
15	DDCクロック

ミニ D-Sub15 ピンコネクター

電源プラグの接続について

電源プラグをコンセントに差し込む。

⚠警告

指定の電源電圧でご使用ください。表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠注意

●電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付けてください。本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お守りください

スイーベル機能 (テレビを手動で左または右に回転させる機能) をお使いになる場合の注意点
(L32-H03B, L32-H03W)

電源コードを接続する際は、スイーベル動作の回転に支障のないように、たるみをもたせてください。